YAMAHA

Marine Jet
VX Deluxe
VX Cruiser

取扱説明書

⚠マリンジェットをご使用になる前に
取扱説明書をよくお読みください。

YAMAHA MOTOR CO., LTD.
F4G-28199-01

マリンジェットをご使用になる前に取扱説明書をよくお読みください。マリンジェットを売却される場合は取扱説明書を添付してください。

JJU35293

お客様へ

ヤマハマリンジェットをお買い上げいただきありがとうございます。
この取扱説明書ではマリンジェットの正しい取り扱い方法と簡単な点検整備について説明してあります。
取り扱いを誤ると重大な事故や故障等の原因となります。
マリンジェットの使い方を十分ご存知の方も製品独自の装備や取り扱いがありますので、ご使用される前には本書を必ずお読みください。またマリンジェットに乗るときは本書を携帯し安全快適なマリンライフをお楽しみください。
本書では正しい取り扱い、および点検整備に関する必要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

⚠ 安全警告記号です。人身傷害の危険性がある場合にこの記号で注意を喚起しています。この記号に続く全ての安全事項を守り、傷害や死亡事故を防止してください。

JWJ00072

⚠警 告

取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。

JCJ00092

注 意

取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。

要 点:

正しい操作の仕方や点検整備上のポイントを示してあります。

JJU40902

仕様の変更などにより図や内容が製品と一部異なる場合がありますのでご了承ください。
本書は大切に保管し、マリンジェットの転売や譲渡等をされる場合は必ず添付してください。マリンジェットに乗るときは、本書を防水バッグに入れて携帯してください。
整備手帳には保証書とともに定期点検整備の項目、および定期点検記録簿が入っております。マリンジェットの維持管理にご活用ください。
保証書はよくお読みいただき裏面のヤマハ取扱店名等をご確認のうえ大切に保存してください。
ご不明な点や不具合なところがありましたらお早めにお買い上げのヤマハ取扱店にご相談ください。ヤマハ取扱店ではお客様の良きアドバイザーとしてご来店をお待ち申し上げております。

目次

製造番号と重要なラベル 1
製造番号 1
艇体番号 1
艇体識別番号 1
エンジン番号 1
製造日付ラベル 2
重要なラベル 3
警告ラベル 4
その他のラベル 5

安全情報 6
マリンジェットの使用にあたり 6
航走について 7
操船について 9
注意事項について 11
マリンジェットの特性について 11
ウェイクボードおよび
水上スキーについて 13
船舶規則 14
船舶検査 14
法定備品 14
航行区域 15
他の遵守事項 17

各部の名称 18
マリンジェットに関する用語 18
各部の名称と位置 19

操船機能の操作 23
操船機能 23
リモートコントロール
トランスミッター 23
ヤマハセキュリティシステム 23
エンジン停止スイッチ 25
緊急エンジン停止スイッチ 25
エンジン始動スイッチ 25
スロットルレバー 26
電動後進レバー（RiDE レバー） 26
ステアリングシステム 27
冷却水点検孔 27
水分離器 27

航走機能の操作 29
航走機能 29
シフトシステム 29
航走モード 32
ロー RPM モード（L- モード） 32
ノーウェイクモード 33
クルーズアシスト 34

計器類の操作 36
マルチファンクションメーター 36
インフォメーションディスプレイ 36
アワーメーター 40
ボルトメーター 40

装備品の操作 41
装備品 41
シート 41
ハンドグリップ 42
リボーディングステップ 42
バウアイ 43
スターンアイ 43
クリート 43
物入れ 44

運航時の取扱い 47
燃料について 47
燃料 47
エンジンオイルについて 49
エンジンオイル 49
ビルジの排水 51
陸上でのビルジ排水 51
水上でのビルジ排水 51
トレーラーでの運搬 52

初めて使用するときは 53
慣らし運転 53

使用前の点検 54
使用前点検チェックリスト 54
使用前点検チェックポイント 56
進水前の点検 56
進水後の点検 61

目次

操船するときは 63
操船するときは 63
使用の前に 63
操船の前に 63
乗船姿勢 63
マリンジェットの進水 64
出航・乗船時のエンジンの始動 64
エンジンの停止 65
マリンジェットから離れるとき 65
マリンジェットの航走 65
マリンジェットの旋回 66
マリンジェットの停船 67
マリンジェットの後進または
ニュートラル 68
マリンジェットへの乗船 69
出航 71
転覆したときには 72
マリンジェットの着岸 73
海藻が密生している場所での航走 ... 73
陸揚げしたときには 73

保管するときは 75
使用後のお手入れ 75
エンジン冷却経路の水洗 75
艇体各部の水洗 76
バッテリーのお手入れ 76
長期保管 79
各部の洗浄 79
各部の潤滑 79
各部の防錆 79

整備と点検 81
整備と点検 81
工具セット 81
定期点検表 82
エンジンオイルとエンジンオイル
フィルターの交換 83

仕様諸元 84
仕様諸元 84

万一のときは 85
トラブルシューティング 85
故障診断表 85
緊急時の対応方法 88
ジェットインテークとインペラの
清掃 88
リバースゲートの持ち上げ 89
ブースターケーブルの使用 89
マリンジェットの曳航 90
水没時の処置 90

附録 92
お客様ご相談窓口のご案内 92

索引 93

製造番号と重要なラベル

JJU36452

製造番号

ヤマハ取扱店に純正部品を注文するときのために、艇体番号、艇体識別番号、エンジン番号を以下の空欄に控えておくことをお奨めします。また、マリンジェットが盗難にあったときのために、これらの番号を別の場所にも控えておくことをお奨めします。

JJU42521

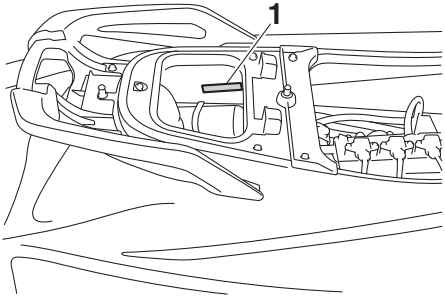
艇体番号

艇体番号はエンジンルームの内壁に貼り付けられたプレートに記載されています。（シートの脱着方法については 41 ページ、着脱式防水物入れについては 46 ページを参照ください。）

モデル：

VX1050B-S (VX Deluxe)

VX1050A-S (VX Cruiser)



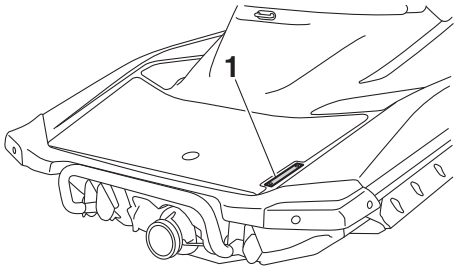
1 艇体番号貼付場所

F4G-□□□□□□

JJU36551

艇体識別番号

艇体識別番号は艇体の後部に貼り付けられたラベルに記載されています。



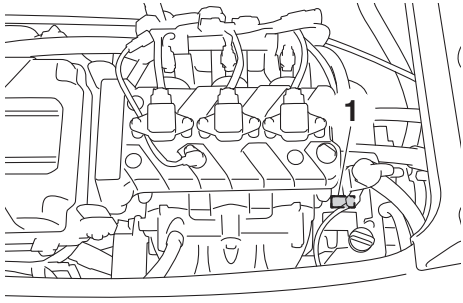
1 艇体識別番号貼付場所

US-YAM□□□□□□□□

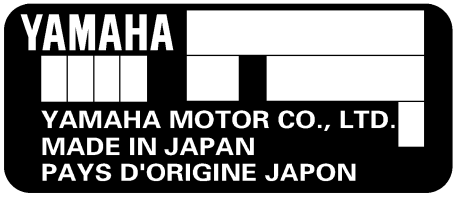
JJU30312

エンジン番号

エンジン番号はエンジンユニットに貼り付けられたプレートに記載されています。（シートの脱着方法については41ページを参照ください。）



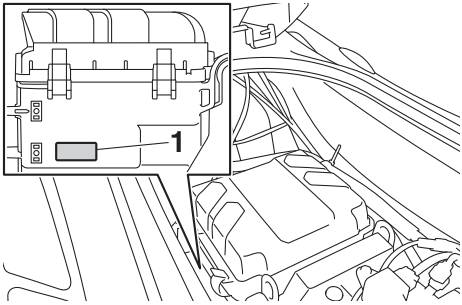
1 エンジン番号貼付場所



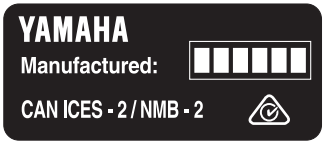
JJU44090

製造日付ラベル

製造日付ラベルはエアフィルターケース左舷側に貼り付けられています。（シートの脱着方法については 41 ページを参照ください。）



1 製造日付ラベル貼付場所

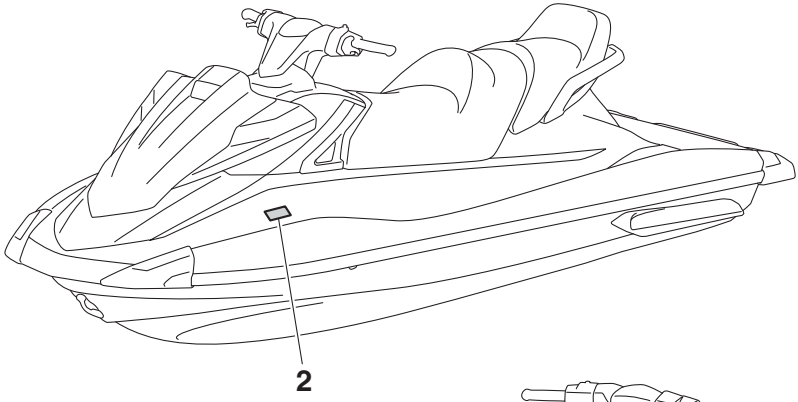


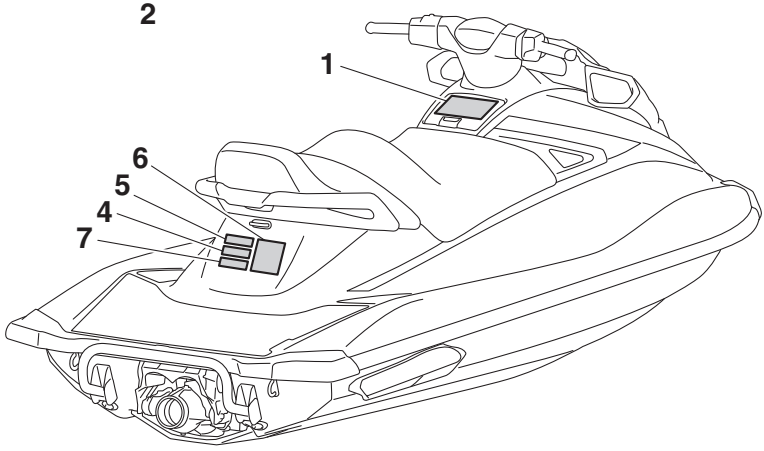
製造番号と重要なラベル

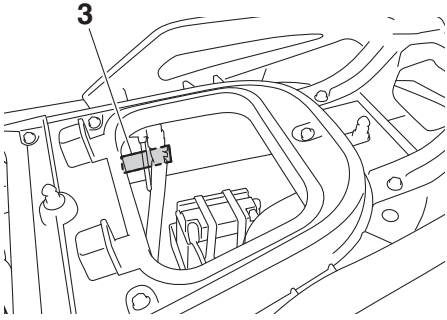
JJU30453

重要なラベル

マリンジェットをご使用になる前にすべてのラベルをよく読んでください。ご不明な点があれば、ヤマハ取扱店にご相談ください。







JJU35914

警告ラベル

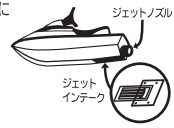
警告ラベルが損傷または紛失している場合は、ヤマハ取扱店で交換してください。

1

⚠ 警 告

マリンジェットを安全にお使いいただくために、次の事項を必ずお守りください。

- **救命胴衣を着用してください。**乗船者はマリンジェットの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。
- **身体を保護できる衣服等を着用してください。**落水による水面への衝撃やジェットノズルの近くで強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部（膣や肛門）の十分な保護にはなりません。身体を保護できるウェットスーツボトム等を必ず着用してください（取扱説明書を参照ください）。シューズ、手袋、ゴーグル(保護眼鏡）等も合わせて着用ください。
- **操船には特殊小型船舶操縦士免許が必要です。**小型船舶操縦免許証を持って乗船してください。
- **操船者が落水したときにエンジンが停止するよう緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けてください。**
  緊急エンジン停止コード（ランヤード）はハンドルバー等に絡まないようにしてください。また航走後は子供等が扱えないようマリンジェットから取り外してください。
- **自分の操船技量をよく知り、無謀な航走はしないでください。**操船に支障が生じたり、落水や衝突の原因になります。マリンジェットは高性能な船舶です。おもちゃではありません。急旋回や波等のジャンプは背骨／脊髄の損傷（麻痺）、顔の損傷、足、くるぶし等の骨折が起こる恐れがあります。ジャンプは行なわないでください。
- **マリンジェットの後方に人がいるときはスロットルを開けないでください。**エンジンを停止させるか、アイドリング回転数にしてください。スロットルを開けるとジェットノズルから噴出される水や異物で大きな怪我をする恐れがあります。
- **ジェットインテークに近づかないでください。**エンジン運転中にジェットインテークに近づくと、長い髪、だぶついた衣服、救命胴衣の紐等が巻き込まれ、大きな怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- **飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。**



取扱説明書をよく読んでからご使用ください。

⚠ 警 告

マリンジェットが衝突した場合、他の船舶に比べて**死傷する**率が高くなります。

次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の**見張りを怠らないでください。**視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。
- **気を抜かないで航走してください。**遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保ってください。
  - 他のマリンジェットや船舶の背後を追走しないでください。
  - 周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
  - 急旋回等、周囲の操船者が予測困難な操船は行なわないでください。
  - 浅瀬または暗礁のある水域は避けてください。

- **早めに行動を起こし**衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。
- 障害物を避けるために**進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。**進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。
  航走前には、スロットルとステアリングが正しく作動することを常に確認してください。
- マリンジェットに関する航海法規及び地域の条例や規則に従ってください。

詳しくは取扱説明書をご覧ください。

F2X-641B1-20

2

⚠ 警 告

ガソリンは高い可燃性と爆発性があります。火災や爆発は死傷の要因となります。
給油の際はエンジンを停止し、火気のない換気のよい場所で行なってください。
喫煙は厳禁です。ガソリンはこぼさないように扱い、こぼしたときは直ちに拭き取ってください。
エンジン始動前には全てのシートを外してエンジンルームの換気を行い、
燃料気化ガスを排出してください。燃料漏れや電装配線の緩みがある場合は
エンジンを始動しないでください。

無鉛レギュラーガソリン専用

YAMAHA

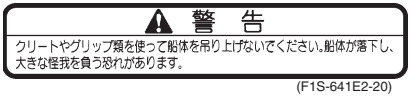
F1S-6415B-20

製造番号と重要なラベル

3

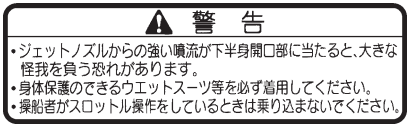
F0V-641DB-20

4



(F1S-641E2-20)

5



(F1S-641E2-20)

JJU44221

その他のラベル

6

(F1S-641E2-20)

7

(F1S-641E2-20)

JJU35393

マリンジェットを安全にご使用いただくためには、適切な操船技術を身に付けるだけでなく、操船者の良識と優れた判断力やマリンジェット特有の特性に関する知識が必要です。

操船者は下記の内容を十分理解してからご使用ください。

- ご使用になる前には、本取扱説明書、操船の手引きと全てのラベルを必ずお読みいただき、マリンジェットの取り扱い方法について十分理解してください。
- お客様のマリンジェットを他人に使用させる場合は、前もって本取扱説明書、操船の手引きと全てのラベルを必ず読ませてください。

操船者には次のような遵守事項があります。

- **酒酔い操縦等の禁止**
  飲酒等により、正常な判断ができない状態での操縦は禁止されています。
- **自己操縦の義務**
  マリンジェットは全ての海域で免許所有者以外が直接操縦することは禁止されています。
- **危険操縦の禁止**
  海水浴場など、遊泳者のいる付近で疾走したり急旋回する等の危険な操縦は禁止されています。
- **救命胴衣の着用義務**
  マリンジェットの全ての乗船者は救命胴衣の着用が義務付けられています。

上記遵守事項に違反し、一定基準に達すると、免許停止または戒告の行政処分を受ける場合があります。

JJU35422

マリンジェットの使用にあたり

- 平成15年6月1日より「船舶職員法」を一部改正した「船舶職員及び小型船舶操縦者法」が施行となり、ボート・ヨット用（小型船舶）免許と水上オートバイ用（特殊小型船舶）免許が区別されました。マリンジェットは特殊小型船舶に分類されます。これにより、マリンジェットの操縦には特殊小型船舶操縦士の資格が必要となります（1 級・2 級小型船舶操縦士免許のみでは操縦できません）。ただし従来の資格による操縦区分は、改正後もそのまま保護されます。そのため改正前に海技免許を取得された方は、5 級小型船舶操縦士以上（湖川小馬力 5 級免許は不可）の資格があれば従来通りマリンジェットを操縦できます。
- 免許所有者以外が操縦することは禁止されています。免許所有者は操縦資格を証明できる様に常に小型船舶操縦免許証を携帯してください。
- マリンジェットを使用する水域の船舶関連法規、条例等を必ず確認し、その指示に従ってください。
- 日本小型船舶検査機構（JCI）により交付された船舶検査証書、船舶検査手帳は必ず船内に備え、船舶検査済票は両舷の周囲から見えやすい位置に貼り付けてください。
- このマリンジェットは操船者の他に同乗者2名の合計3名までを定員として乗船できますが、総重量が最大積載重量を越えないようにしてください。

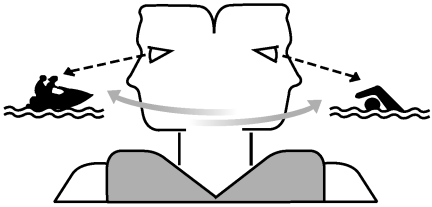
最大積載重量：
240 kg（操船者、同乗者および、荷物の重量を含む）
定員：
3 名、または 2 名とプレーヤー 1 名

- 同乗者を乗せた操船はより高度な技量が必要とされますので、1 人での操船に十分に慣れるまでは同乗者を乗せないでください。
  高技術を要する操船を試みる前に、マリンジェットの航走特性に十分に慣れてください。

JJU43321

航走について

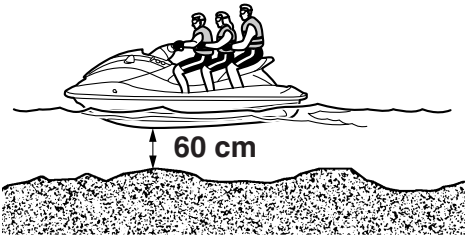
- 遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。



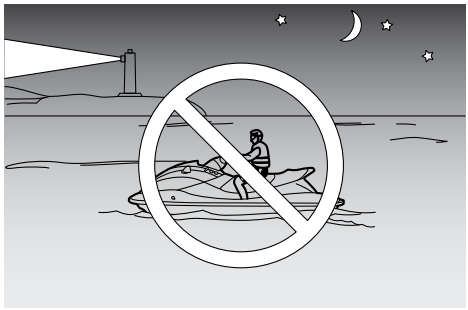
- 気を抜かないで航走してください。遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保ってください。
- 他のマリンジェットや船舶の背後を追走しないでください。
- 周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。
- 早めに行動を起こし衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。また、電動減速後進機構（RiDE）は危険回避のためのブレーキ装置ではありません。RiDE は、エンジン回転数と、ジェットノズル付近にあるリバースゲートを電気的に制御する機構です。ハンドル左手のRiDEレバーによって、噴流の向きを後進やニュートラルに調整し、減速や着岸・離岸時の操船の補助をすることができます。
- 急旋回や RiDE レバーを強く握り急減速する等、周囲の操船者が予測困難な操船は行なわないでください。
- 浅瀬または暗礁のある水域は避けてください。
- 障害物を避けるために進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。進路を変更するためにはスロットル操作が

必要です。航走前には、スロットルとステアリングが正しく作動することを常に確認してください。

- 自分の操船技量をよく知り、無謀な航走はしないでください。操船に支障が生じたり、落水や衝突の原因になります。
- マリンジェットは高性能な船舶です。おもちゃではありません。急旋回や波等のジャンプは背骨／脊髄の損傷（麻痺）、顔の損傷、足、くるぶし等の骨折が起こる恐れがあります。ジャンプは行なわないでください。
- 荒波、悪天候、視界不良のときなどには航走しないでください。重大な海難事故につながる恐れがあります。出航前には天気予報を確認し、気象の変化に留意してください。
- 他のマリンスポーツと同様、単独での行動はやめましょう。ご自身が泳ぎ着ける距離を越えて陸岸から沖合いに出る場合は、他の船舶等と同行しましょう。これはマリンスポーツを行なう場合の良識です。
- 船底から水底までの距離が60 cm以下のところでは絶対に使用しないでください。航走中や落水時に水中の障害物に接触して負傷する恐れがあります。



- 夜間の航行は法令によりできません。

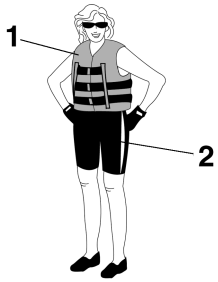


- マリンジェットに関する航海法規及び地域の条例や規則に従ってください。

JJU43140

操船について

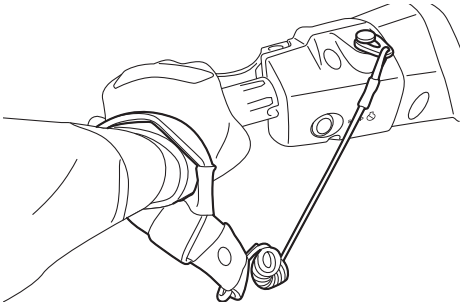
- 救命胴衣を着用してください。乗船者はマリンジェットの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。
- 身体を保護できる衣服等を着用してください。落水による水面への衝撃やジェットノズル付近で強い噴流を受けた場合、身体開口部に大きな怪我を負う恐れがあります。通常の水着では下半身開口部（膣や肛門）の十分な保護になりません。身体を保護できるウェットスーツボトム等を必ず着用してください。厚くしっかりした丈夫な布でデニムのように体にぴったりした衣類がそれに相当します。しかし、自転車競技用の短パンに使われているスパンデックスのような織物は効果が有りません。



1 日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣
2 ウェットスーツボトム

- 風や水飛沫、太陽の水面反射光等は航走中の視野を狭めます。そのようなときにはゴーグル、サングラス等の保護眼鏡を着用することを推奨いたします。
  眼鏡のストラップには眼鏡が水没したときに水に浮くようなものも有ります。
  シューズ、手袋等も併せて着用してください。
- ヘルメットの着用については次のことを考慮した上で判断してください。
  ヘルメットを着用することで落水、衝突等の事故から頭部を保護できる場合もありますが、一方では視野が制限されたり、周囲の音が聞こえにくくなったり、ヘルメットの重みで疲れやすくなったりすることもあり、事故につながる恐れもあります。また、航走中に落水したときにはヘルメットの中に水が入り呼吸ができなくなったり、首などに傷害等を受けることもあります。
  ヘルメットの着用はマリンジェットの使用状況等を考慮して判断してください。競技等に参加される場合は、開催者が認定したヘルメットを着用してください。
- 飲酒や薬物の服用後は絶対に乗船しないでください。
- 安全で適正な機能維持のために、ご使用前に 54 ページの「使用前の点検」を必ず実行してください。
- 操船者は必ず両手でハンドルバーをしっかりと握り、同乗者は必ず前の人またはグリップにしっかりと掴まってください。
- 航走中、乗船者は必ず両足をフットウェルフロアに置いてください。足を浮かせると身体のバランスを失ったり、マリンジェット周辺の障害物等に足を接触させる恐れがあります。両足がフットウェルフロアに届かないような子供は乗せないでください。

- 同乗者を操船者の前に乗せないようにしてください。
- 妊娠中や健康状態が良くない方は乗船する前に医師に相談してください。
- マリンジェットの改造はしないでください。改造行為は安全性および信頼性を低下させ、法令違反となることがあります。
- 操船者が落水したときにエンジンが停止するよう緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けてください。緊急エンジン停止コード（ランヤード）はハンドルバー等に絡まらないようにしてください。また航走後は子供等が扱えないようマリンジェットから取り外してください。



- 遊泳者等には常に注意を払ってください。また、遊泳水域には近づかないようにしてください。遊泳者はマリンジェットからは見えにくく、誤って衝突する恐れがあります。
- 周囲の船舶から衝突されないように、常に自分の方から周囲を監視するようにしてください。周囲の船舶の操船者がマリンジェットに気がついていない場合や気づいても突然予期せぬ航走をした場合は、衝突する恐れがあります。
- 常に周囲の船舶等との間には安全な距離を保ってください。また、周囲の船舶の水上スキーロープや釣り糸にも注意してください。

航海法規を守り、特に旋回や減速をするときは後方をよく確認してください。

JJU43620

注意事項について

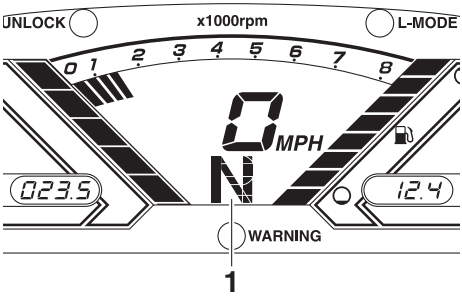
- 閉め切った場所でエンジンを始動させたり、短時間であっても運転することは絶対にしないでください。排気ガスは一酸化炭素を含み、中毒を起す恐れがあります。マリンジェットは開放された場所でご使用ください。
- オイルタンクやマフラー、エンジン本体は、エンジン停止直後は高温になっています。
  直接触れると火傷をする恐れが有ります。
- 強い磁気を帯びたものや、磁気の影響を受けやすいカード類、時計などをスロットルレバーと RiDE レバーに近づけないでください。電子スロットル機構が悪影響を受け、コントロールを失う恐れがあります。

JJU42414

マリンジェットの特性について

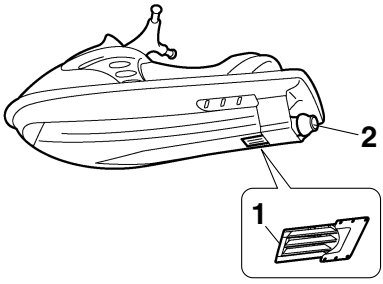
- マリンジェットは推進力によって旋回します。スロットルレバーを完全に放すと推進力は最小になります。滑走中にスロットルを戻すと、旋回能力が急速に低下します。一度エンジンの回転が落ちてしまうと、いくらハンドル操作を行なっても、再びスロットルを開くまで、または艇がトローリング速度に到達するまで、旋回はできません。旋回方法に十分に慣れるまでは障害物等の無い広い場所で練習してください。
  このモデルはオフスロットルステアリングシステム（OTS）を備えたヤマハエンジンマネージメントシステム（YEMS）を採用しています。OTS はプレーニング速度でスロットルを放してステアリングを切ったときに作動し、マリンジェットの減速中にも若干の推進力を与え続けることで旋回性の補助をします。旋回中にスロットルを開ければさらに急旋回をすることができます。OTS はエンジン停止状態またはプレーニング速度未満では動作しません。
- マリンジェットは水の噴流によって推進力を得ます。ジェットポンプはエンジンに直結されているため、マルチファンクションディスプレイのシフトインジケーターが “N” 以外を表示しているときは、常に推進力が発生します。シフトインジケーターが “N” を表示しているときは、マリンジェットが多少動く可能性がありますが、推進力が発生しないよう、噴流を前進と後

進の中間でバランスが取れた状態にします。



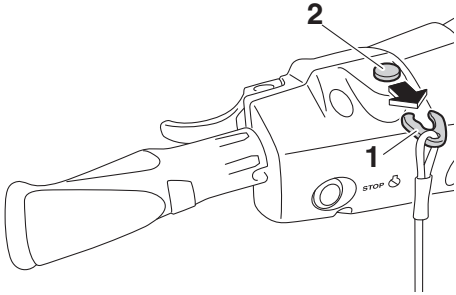
1 N（ニュートラル位置）

- 航走中にRiDEレバーを握り、減速または停船するときは、後方からの追突を避けるため、後方を確認してください。
  後進する前には、後方に障害物がなく、人がいない事を確認してください。
- ジェットインテークに近づかないでください。エンジン運転中にジェットインテークに近づくと、長い髪、だぶついた衣服、救命胴衣の紐等が巻き込まれ、大きな怪我をしたり、溺れる恐れがあります。
- ジェットノズルの中には絶対に物を入れないでください。ジェットポンプの回転部品と接触し、重大な事故につながる恐れがあります。



1 ジェットインテーク
2 ジェットノズル

- ジェットインテークにはゴミや海藻が吸い込まれて付着することがあります。これらを取り除くときは必ずエンジンを停止させ、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外してください。

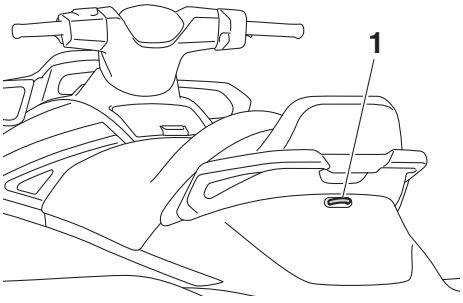


1 ロックプレート
2 緊急エンジン停止スイッチ

JJU35466

ウェイクボードおよび水上スキーについて

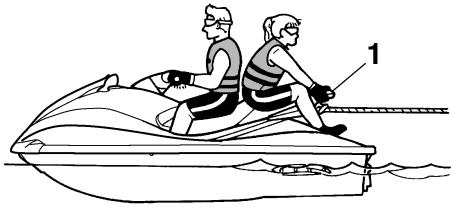
操船者、後方監視者、プレーヤーを収容するシートが装備されているマリンジェットに限り、ウェイクボード／水上スキーを行なうことができます。
更に、スキーロープ専用のクリート等が備えられていることが必要となります。スキーロープは、これ以外の場所に取り付けないでください。



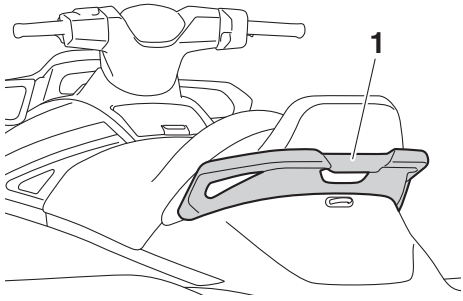
1 クリート

マリンジェットの操船者には、プレーヤー等の安全を守る責任があります。使用水域におけるトーイングに関する規則や条例等を確認し、それに従ってください。
操船者は同乗者を乗せたときの操船に十分慣れてからプレーヤーを牽引するようにしてください。
トーイングを行なうときは、次の事項を必ず守ってください。

- プレーヤーを含む全ての乗船者はマリンジェットの用途に合った日本小型船舶検査機構（JCI）認定の救命胴衣（ライフジャケット）を必ず着用してください。救命胴衣は周囲から目立つよう、できる限り明るい色のものを着用してください。
- プレーヤーは落水時の水面の衝撃から身体開口部を保護できる衣服を着用してください。
  通常の水着では十分な保護にはなりません。プレーヤーは身体を保護できるウェットスーツ等を着用してください。
- プレーヤーの監視者を乗船させなければなりません。手信号で航走スピードや方向をプレーヤーに指示してください。
  監視者は後方を向いてシートに座り、ハンドグリップを掴み、両足はフットウェルフロアにしっかりと置いてバランスをとり、プレーヤーの手信号や状態を監視してください。



1 ハンドグリップ



1 ハンドグリップ

- プレーヤーを牽引するときは、操船が水面や天候状態に左右されると同様にプレーヤーの技量によっても操船に支障を生じさせる恐れがあります。

- プレーヤーの立ち上がり準備中は、マリンジェットがプレーヤーから十分遠ざかり、スキーロープの弛みが無くなるまでは、最低速度で操船してください。スキーロープは周囲のものに絡まないようにしてください。
  プレーヤーの準備と、周囲の安全を確認してから、スロットルを開きプレーヤーを立ち上がらせてください。
- スムースで緩やかな旋回を行なってください。急旋回を行なうとプレーヤーの能力がそれに追随できないことがあります。障害物等からプレーヤーまでの距離は、スキーロープの約 2 倍の 50 m 以上を保ってください。
- 周囲の船舶はあなたのマリンジェットがトーイングしているとは思っていないかもしれません。監視者と連携して細心の注意を払い、安全でゆとりある航行をしてください。
- プレーヤーが転倒したり、立ち上がりに失敗したときに、スキーロープのハンドルバーがマリンジェットの方にはね返って来ることがありますので注意してください。
- プレーヤーより重いものや大きいものを牽引すると、操船不能の原因となり危険な状況に陥ることがあります。非常事態によりやむを得ずに牽引しなければならないときは、ゆっくりと注意深く操船してください。

JJU35472

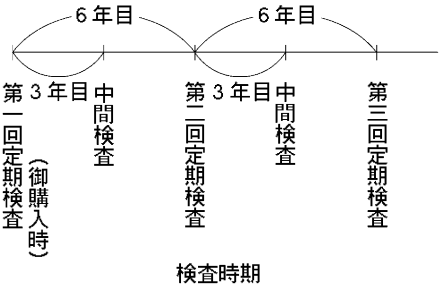
船舶規則

マリンジェットは法律上においては動力船とみなされます。マリンジェットを使用するときは、船舶安全法、使用水域の法令や規則等に必ず従ってください。

JJU40511

船舶検査

船舶安全法により総トン数が 20 トン未満の船舶は、日本小型船舶検査機構（JCI）の行なう検査に合格し、検査証等を交付された後でなければ航行できません。船舶検査には初回およびその後 6 年毎に行なう「定期検査」と、定期検査後 3 年毎に行なう「中間検査」などがあります。
詳しくは、お買い上げのヤマハ取扱店または日本小型船舶検査機構（JCI）にお問い合わせいただき、必ず船舶検査を受けてからご使用ください。



JJU35493

法定備品

船舶安全法によりマリンジェットに搭載する備品の種類と数量が定められています。マリンジェットをご使用になる前に、下記の法定備品が搭載されていることを確認してください。

詳しくは、ヤマハ取扱店または日本小型船舶検査機構（JCI）にお問い合わせください。

区　分	備品の名称	数量	備　　考
救命設備	救命胴衣（JCI認定品）	1〜3	乗船者は必ず着用してください。
	小型船舶用信号紅炎セット　※1	1	
航海用具	音響信号器具	1	笛で代用できます。
係船設備	係船ロープ	1	

※1：
- 航行区域が川のみに限定されているものは不要
- 携帯電話（航行区域がサービスエリア内、防水機能等の条件有）等の有効な無線設備を備えるものは不要

小型船舶用信号紅炎セットは付属の指示をよく読み、硬い鋭利なものと混載しないよう専用のケースに入れ、航走中に物入れ内で動き回らないように確実に搭載してください。詳しくはお買い上げのヤマハ取扱店にご相談ください。

JJU35503

航行区域

マリンジェットの航行区域は、船舶安全法により次の区分によって規制されています。

- 一般的に使用するマリンジェットの場合。
- 母船に搭載して使用するマリンジェットの場合。

それぞれに関して次のように航行区域を規制してありますので十分注意して使用ください。詳しくは、船舶検査証書を確認してください。

JJU35512

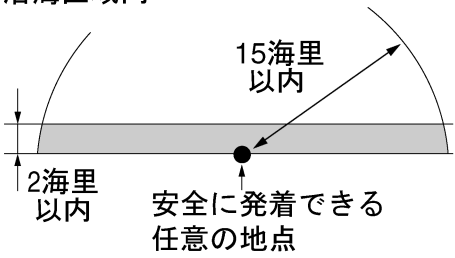
一般的に使用するマリンジェットの航行区域

- 沿海区域

  マリンジェットが安全に発着できる任意の地点から 15 海里（約 28 km）以内の水域のうち、当該地点における海岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域に限定されます。図のように航行区域が制限されます。

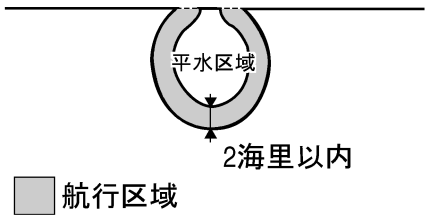
  安全に発着できない海岸とは、海岸線に岩、崖、護岸（消波ブロックや防波堤）、隠頭岩（潮の満ち引きにより見え隠れする岩、見えないが水深が十分にない岩）などがある海岸です。

沿海区域内



- 平水区域

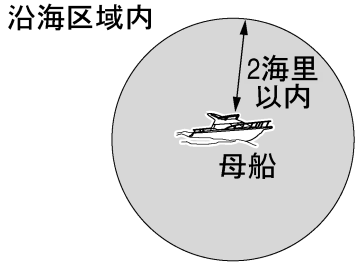
  平水区域の陸岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域に限定されます。
  図のように航行区域が制限されます。
  平水区域とは沿海区域に含まれ、船舶安全法施行規則第 1 条第 6 項で定められた湖、河川、湾などの水域です。



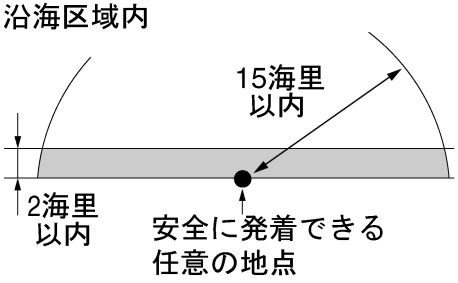
JJU35521

母船に搭載して使用するマリンジェットの航行区域

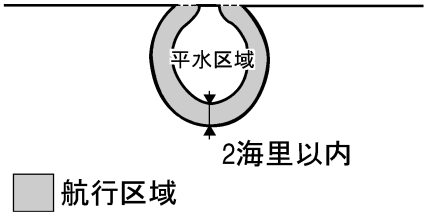
- 沿海区域内で母船を中心に半径 2 海里（約 3.7 km）以内の水域
  図のように航行区域が制限されます。



- 沿海区域内でマリンジェットが安全に発着できる任意の地点から 15 海里（約 28 km）以内の水域のうち、当該地点における海岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域
  図のように航行区域が制限されます。



- 平水区域内の水域のうち陸岸から 2 海里（約 3.7 km）以内の水域
  図のように航行区域が制限されます。



JJU35532

他の遵守事項

海は共有の場、いろいろな楽しみを求めてたくさんの方々が利用する場所です。また、この海を生活の糧とする方々も多数います。この共有の財産をいつまでも楽しく使うために次の事を守りましょう。

周辺の人々のために

- 遊泳者のいる近くでは乗らないでください。
- 人家の近くでは乗らないでください。
- 他人に迷惑を掛ける騒音は出さないでください。
- 釣り船、釣り人の迷惑にならないよう注意してください。
- 航走中の周囲の船舶に近づかないでください。
- 漁場への乗り入れ、操業中の漁船に近づかないでください。
- 乗り入れ禁止区域には入らないでください。
- 指定区域内では制限速度を守ってください。

いつまでもきれいな海で乗るために

- 自分たちのゴミは自分たちで処理しましょう。（不法投棄は絶対しないでください。）
- 燃料やオイルで海岸や水面を汚さないようにしましょう。
- 自然の景観や生物を大切にしましょう。

JJU43331

マリンジェットに関する用語

トローリング速度
トローリング速度は、低速域の速度です。
スロットル操作を行なわないか、少しだけのスロットル操作を行ないます。マリンジェットはまだ水から浮上していません。
この状態では引き波はほとんど起きません。

サブプレーニング速度
サブプレーニング速度は、中速域での限られた速度です。
マリンジェットの船首部が水から浮上しようとして持ち上がった状態です。しかし、マリンジェットの船尾部は、まだ水から浮上していません。
この状態では引き波が起きます。

プレーニング速度
プレーニング速度は、中高速域での速度です。
マリンジェットは水から浮上しています。
この状態では引き波が起きます。

バウ
マリンジェットの船首です。

スターン
マリンジェットの船尾です。

右舷
マリンジェットの進行方向に向かって右側です。

左舷
マリンジェットの進行方向に向かって左側です。

ビルジ
エンジンルーム内に溜まった水です。

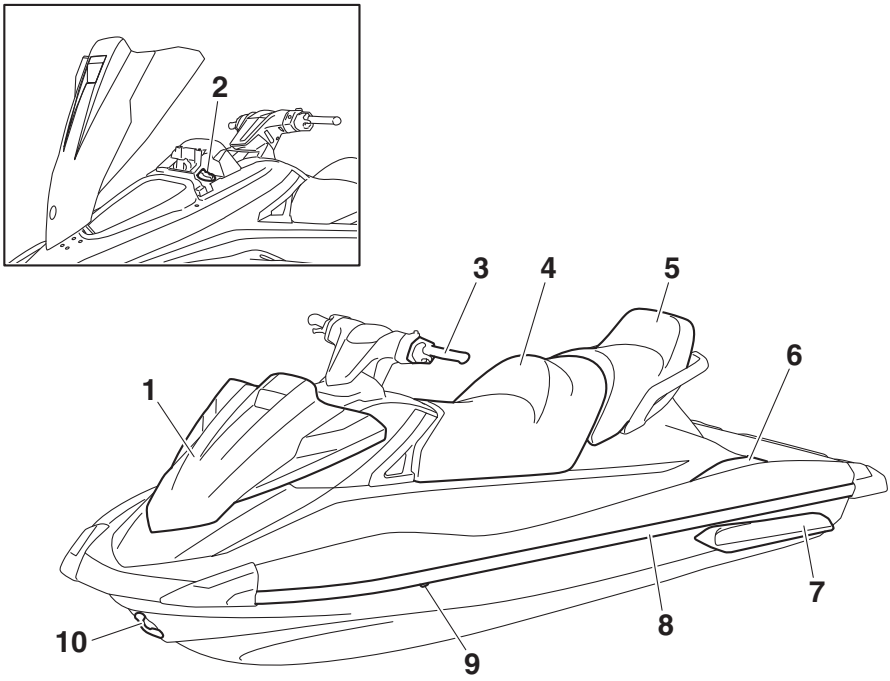
ヤマハエンジンマネージメントシステム（YEMS）
YEMS は、点火時期や燃料噴射特性、自己診断機能、オフスロットルステアリングシステム（OTS）の制御を行なう、マリンジェットを統合的にコンピューター制御するシステムです。

電動減速後進機構（RiDE）
RiDE は、後進やニュートラル、減速を電子制御で行なう機構です。

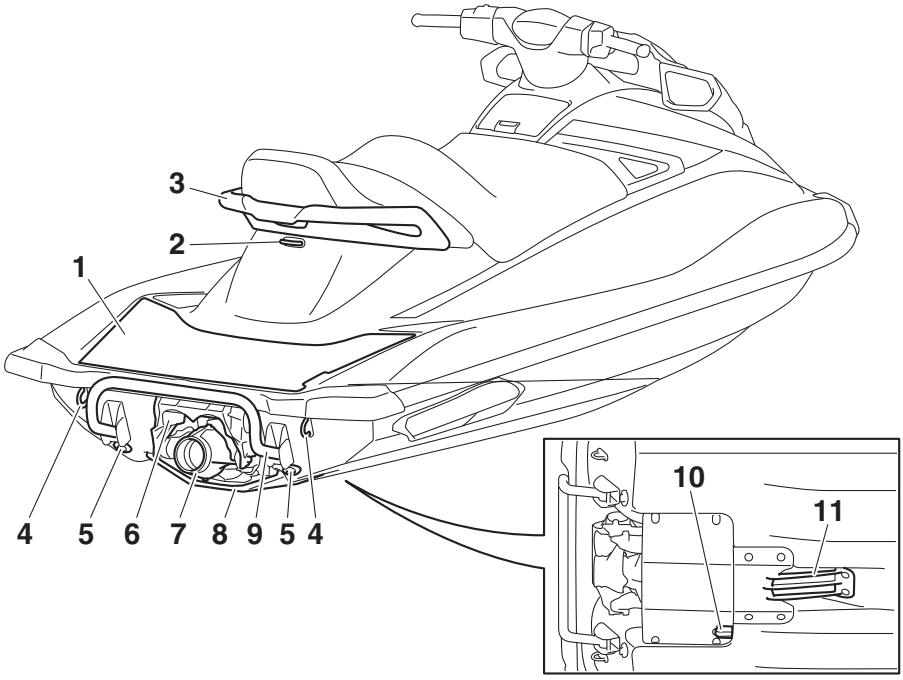
JJU31012

各部の名称と位置

艇体外観

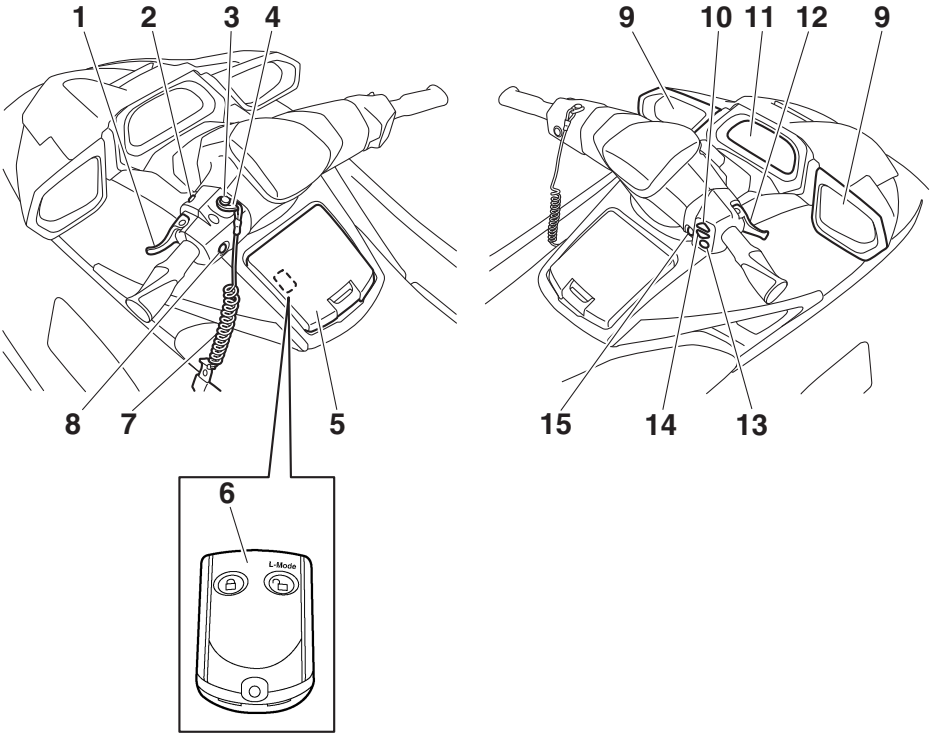


1 フード
2 燃料フィラーキャップ（47 ページ）
3 ハンドルバー
4 フロントシート（41 ページ）
5 リヤシート（41 ページ）
6 フットウェルフロア
7 スポンソン
8 ガンネル
9 冷却水点検孔（27 ページ）
10 バウアイ（43 ページ）



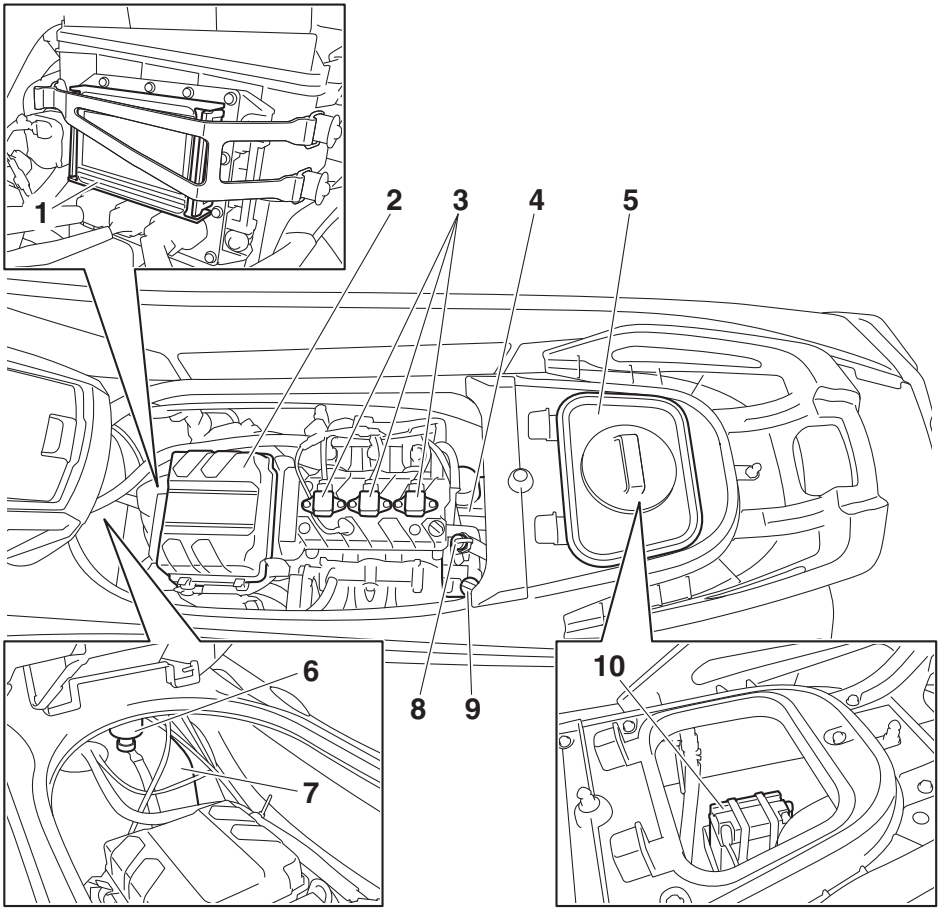
1 ボーディングプラットフォーム
2 クリート（43 ページ）
3 ハンドグリップ（42 ページ）
4 スターンアイ（43 ページ）
5 ドレンプラグ（51 ページ）
6 リバースゲート（29 ページ）
7 ジェットノズル
8 ライドプレート
9 リボーディングステップ（42 ページ）
10 スピードセンサー
11 ジェットインテーク

各部の名称



1 RiDE レバー（29 ページ）
2 エンジン始動スイッチ（25 ページ）
3 緊急エンジン停止スイッチ（25 ページ）
4 ロックプレート（25 ページ）
5 グローブボックス（45 ページ）
6 リモートコントロールトランスミッター（23 ページ）
7 緊急エンジン停止コード（ランヤード）（25 ページ）
8 エンジン停止スイッチ（25 ページ）
9 リヤビューミラー
10 クルーズアシストアップスイッチ（34 ページ）
11 マルチファンクションメーター（36 ページ）
12 スロットルレバー（26 ページ）
13 “SET” スイッチ（34 ページ）
14 クルーズアシストダウンスイッチ（34 ページ）
15 “NO-WAKE MODE” スイッチ（33 ページ）

エンジンルーム



1 ヒューズボックス
2 エアフィルターケース
3 スパークプラグ／イグニッションコイル
4 オイルタンク
5 着脱式防水物入れ（46 ページ）
6 水分離器（27 ページ）
7 燃料タンク
8 水洗ホースコネクター（75 ページ）
9 オイルタンクフィラーキャップ／オイルレベルゲージ
10 バッテリー（57 ページ）

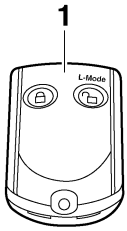
JJU31026

操船機能

JJU43700

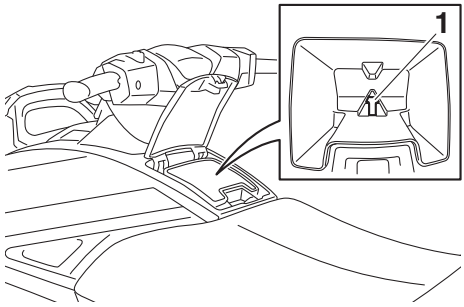
リモートコントロールトランスミッター

リモートコントロールトランスミッター（以下トランスミッター）を操作すると、ヤマハセキュリティシステムの設定と L- モードの作動を行なうことができます。（ヤマハセキュリティシステムの設定については 23 ページ、L- モードの作動については 32 ページを参照ください。）



1 リモートコントロールトランスミッター

各艇体にそれぞれ専用のセキュリティコードがあり、各設定は艇体に付属のトランスミッター以外では変更できないようになっています。
もしトランスミッターを紛失したり、正常に動作しなくなった場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。
マリンジェットを使用するときは、トランスミッターの紛失を防ぐためグローブボックスのトランスミッターホルダーに収納するなどして、常に携帯してください。



1 トランスミッターホルダー

JCJ00753

注 意

- **トランスミッターは完全防水ではありません。水に沈めたり、水中で操作することは避けてください。もし水没した場合は、柔らかい乾いた布で水分を拭き取ったあと動作確認を行なってください。正常に動作しない場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。**
- **高温になる場所や直射日光の下に放置しないでください。**
- **落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。**
- **お手入れをする際は、乾いた柔らかい布で汚れや水分を拭き取ってください。洗剤、ガソリン、アルコール、薬品等は使用しないでください。**
- **分解しないでください。誤作動の原因となります。電池の交換が必要な場合は必ずヤマハ取扱店にご相談ください。電池の廃棄をする場合は、各地域の有害物質廃棄条例に従ってください。**

JJU31385

ヤマハセキュリティシステム

ヤマハセキュリティシステムはマリンジェットの不正使用や盗難を防ぐための機能です。艇体に付属のトランスミッターを操作すると、ヤマハセキュリティシステムの

ロック／アンロック設定を行なうことができます。ヤマハセキュリティシステムをロックに設定するとエンジンが始動できなくなります。ロックが解除されているときのみ、エンジンが始動できます。（トランスミッターについては 23 ページを参照ください。）

要　点：

ヤマハセキュリティシステムの設定は、エンジン停止中にのみ行なえます。

JJU36776

ヤマハセキュリティシステムの設定

ヤマハセキュリティシステムの設定確認は、トランスミッターを操作したときに鳴るブザーの回数と、マルチファンクションメーターの“UNLOCK”表示灯によって行います。（マルチファンクションメーターについては 36 ページを参照ください。）

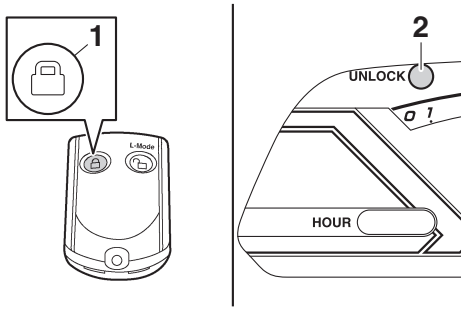
ブザーの回数	ヤマハセキュリティシステムの状態	“UNLOCK”表示灯
●	ロック	消灯
● ●	アンロック（通常航走状態）	点灯
● ● ●	アンロック（L- モード）	点灯

要　点：

- ブザーが2回鳴った場合は通常航走状態、3回鳴った場合はL- モードとなっています。（L- モードの作動については 32 ページを参照ください。）
- マルチファンクションメーターが待機状態のときにトランスミッターを操作すると、マルチファンクションメーターは初期動作後、各機能設定を実行します。

ロックを設定するときは：

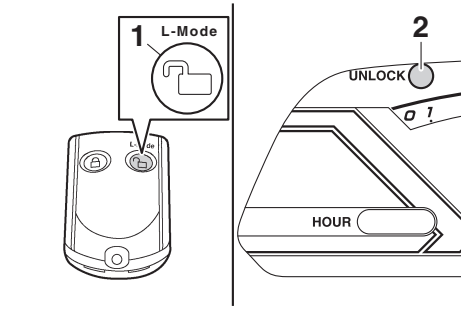
トランスミッターのロックボタンを短く押します。ブザーが 1 回鳴り “UNLOCK” 表示灯が 1 回点滅の後消灯し、ロックが設定されます。



1 LOCK ボタン
2 “UNLOCK” 表示灯

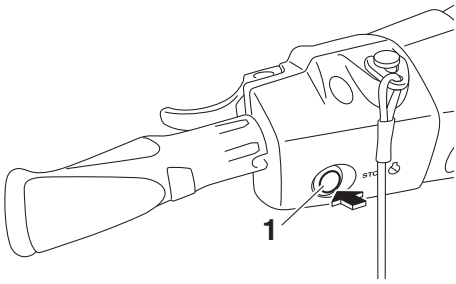
ロックを解除するときは：

トランスミッターの “L-Mode”（アンロック）ボタンを短く押します。ブザーが 2 回または 3 回鳴り、“UNLOCK” 表示灯が 2 回または 3 回点滅の後点灯し、ロックが解除されます。



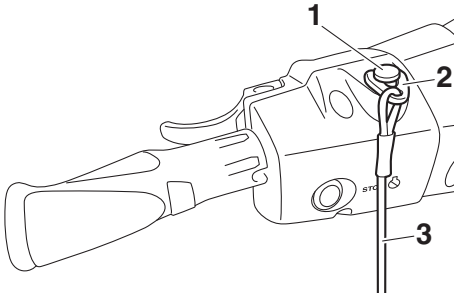
1 “L-Mode”（アンロック）ボタン
2 “UNLOCK” 表示灯

JJU31153
エンジン停止スイッチ “⏻”
エンジン停止スイッチ（赤ボタン）を押すと、エンジンが停止します。



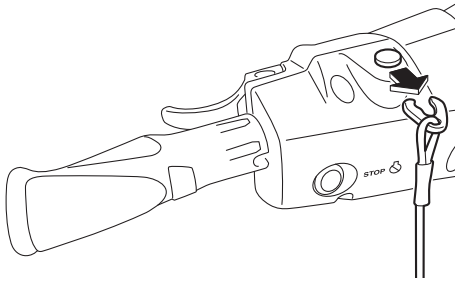
1 エンジン停止スイッチ

JJU31164
緊急エンジン停止スイッチ “⚠”
緊急エンジン停止スイッチは操船者の落水等で緊急エンジン停止コード（ランヤード）に取り付けられたロックプレートが外れると、エンジンを自動的に停止します。
エンジンを始動する前に、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチの下に差し込みます。



1 緊急エンジン停止スイッチ
2 ロックプレート
3 緊急エンジン停止コード（ランヤード）

不意のエンジン始動や子供等が操作することを防止するために、エンジンが停止しているときは必ずロックプレートを緊急エンジン停止スイッチから取り外してください。



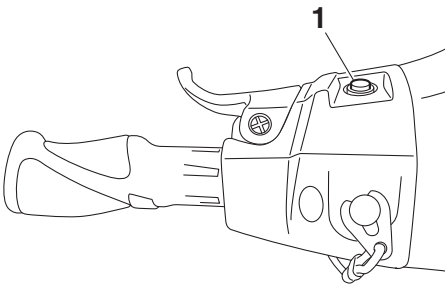
JJU42323
エンジン始動スイッチ “⏻”
JCJ01311

注 意

陸上ではエンジン回転数を 4000 回転以上に上げないでください。またエンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で、15 秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

エンジン始動スイッチ（緑ボタン）を押すと、エンジンが始動します。
エンジンが始動したらただちにエンジン始動スイッチを放してください。エンジン始動スイッチを5秒押してもエンジンが始動しないときは、15 秒待ってから再始動してください。***注意：*エンジン運転中はエンジン始動スイッチを絶対に押さないでください。スターターモーターは連続して5秒以上回さないでください。バッテリーが上がり、エンジンが始動できなくなる恐れがあります。ま**

た、スターターモーターの損傷の要因ともなります。[JCJ01041]



1 エンジン始動スイッチ

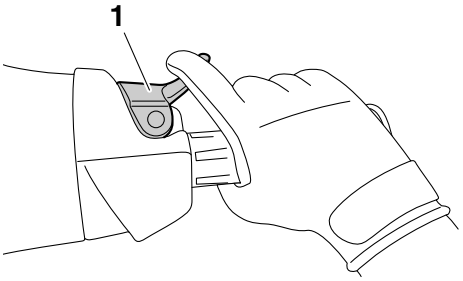
マリンジェットが以下の状態にあるときは、エンジンは始動しません。

- ヤマハセキュリティシステムでロックが選択されている。（ヤマハセキュリティシステムの設定については 24 ページを参照ください。）
- ロックプレートが緊急エンジン停止スイッチから外れている。
- スロットルレバーを握っている。
- スロットルレバーが故障している。
- RiDE レバーを握っている。
- RiDE レバーが故障している。

JJU31212

スロットルレバー

スロットルレバーを握るとエンジン回転数が上昇します。



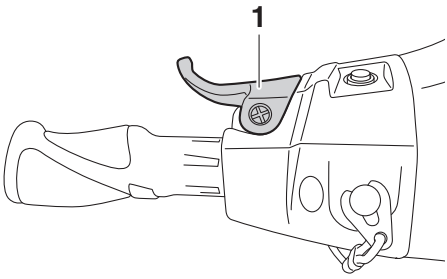
1 スロットルレバー

スロットルレバーを放すと自動的に全閉状態（アイドリング回転数）に戻ります。

JJU43342

電動後進レバー（RiDE レバー）

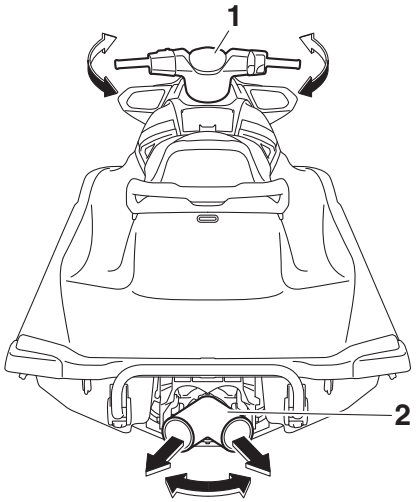
電動後進レバー（RiDE レバー）を握ると、リバースゲートが下降し、マリンジェットは後進を始めます。前進中であればマリンジェットは徐々に減速し、一旦停止してから後進を始めます。



1 RiDE レバー

RiDE レバーを放すと自動的に全閉状態（アイドリング回転数）に戻り、リバースゲートがニュートラル位置になります。

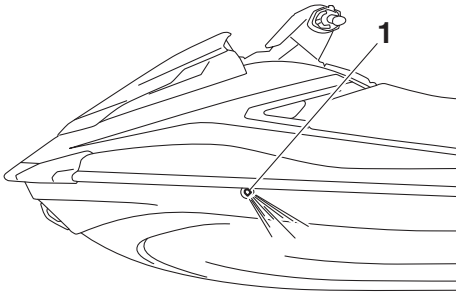
JJU31262
ステアリングシステム
ハンドルバーを操作すると、艇体後部に有るジェットノズルの向きが変わり、これに応じてマリンジェットの進行方向が変わります。



1 ハンドルバー
2 ジェットノズル

ジェットノズルからの噴流の方向や強弱によって速度や旋回角度が変わります。トローリング速度以外で旋回する時は、常にスロットルを開ける必要があります。
このモデルはオフスロットルステアリングシステム（OTS）を備えたヤマハエンジンマネージメントシステム（YEMS）を採用しています。OTS はプレーニング速度からスロットルレバーを放してステアリングを切ったときに作動し、マリンジェットの減速中にも若干の推進力を与え続けることで旋回性の補助をします。旋回中にスロットルを開ければさらに急旋回をすることができます。OTS はエンジン停止状態またはプレーニング速度未満では作動しません。

JJU35975
冷却水点検孔
冷却水点検孔は、エンジン運転中にエンジン内を循環する冷却水の一部を排水します。



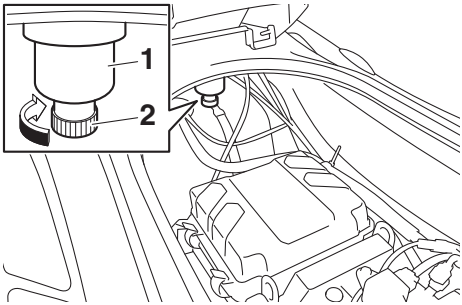
1 冷却水点検孔

冷却水点検孔は艇体の左舷にあり、冷却機能の正常な作動は冷却水点検孔から排水されていることで確認できます。排水されていない場合は、エンジンを停止させてから、ジェットインテークに異物が詰まっていないか点検してください。（ジェットインテークについては 88 ページを参照ください。）

要　点：
- エンジン始動後に冷却水が点検孔に達するまでに約60秒程かかることがあります。
- アイドリング回転数でエンジン運転中は排水が不安定な場合があります。そのときはスロットルを少し開いて排水を確認してください。

JJU40323
水分離器
水分離器は、転覆時などに燃料ブリーザーホースから浸入した水が燃料タンクに入らないよう、浸入した水を溜めます。

水分離器内に溜まった水は、ドレンスクリューを緩めると排水できます。



1 水分離器
2 ドレンスクリュー

水分離器に溜まった水を排水するときは：

(1) 受け皿や乾いた布を水分離器の下に用意します。
(2) ドレンスクリューを徐々に緩め排水します。排水は受け皿に受けたり、乾いた布にしみ込ませたりしてエンジンルームにこぼさないようにしてください。エンジンルームにこぼした場合は、乾いた布で拭き取ってください。
(3) ドレンスクリューを止まるまで確実に締め込みます。

JJU40014

航走機能

JJU43154

シフトシステム

JWJ01773

⚠警 告

- **「後進」にシフトする前には必ず後方に障害物や人がいないことを確認してください。**
- **RiDE レバー操作中はリバースゲートに触れないでください。挟まれる恐れがあります。**
- **スロットルレバーと RiDE レバーを同時に握っている場合、RiDE レバーのみを放さないでください。スロットルレバーを握ったまま RiDE レバーを放すと、マリンジェットが思わぬ急加速をし、事故につながる恐れがあります。**

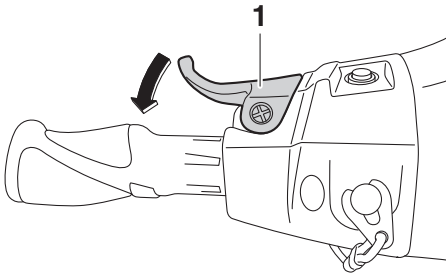
エンジン運転中にのみ、RiDEレバーとスロットルレバーを操作すると、マリンジェットのシフトが変更されます。RiDE レバーを操作すると、リバースゲートが下降し、ジェットノズルからの噴流の向きが変わり、マリンジェットが後進またはニュートラルになります。スロットルレバーを操作すると、リバースゲートが上昇し、マリンジェットが前進します。

要 点：

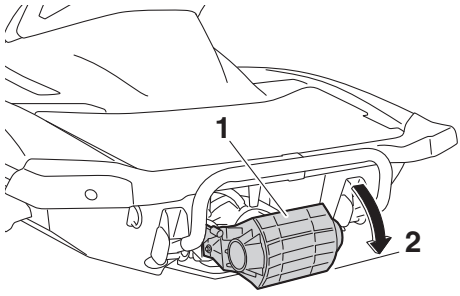
- このモデルには後進時のエンジン回転数を制限する機能がついています。
- エンジンを始動すると自動的にリバースゲートがニュートラル位置になります。

後進するときは：

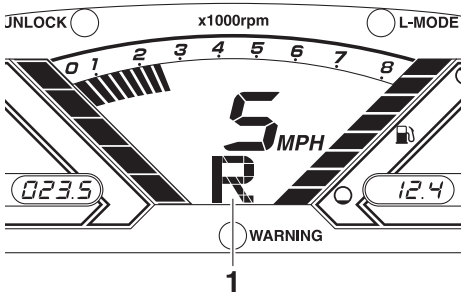
(1) スロットルレバーを放します。
(2) RiDE レバーを握ると、リバースゲートが下降し、エンジン回転数が上昇し、後進を開始します。シフトインジケーターは “R” を表示します。



1 RiDE レバー

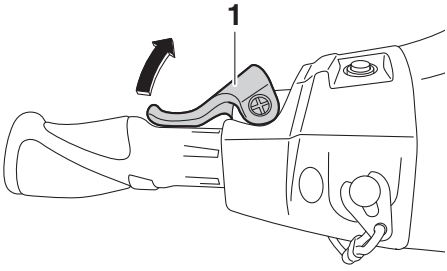


1 リバースゲート
2 後進位置

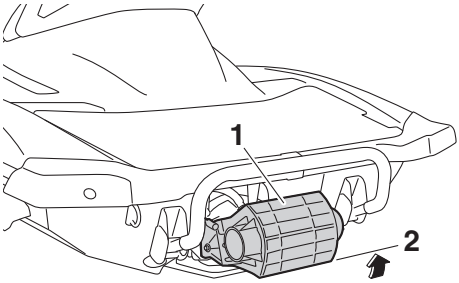


1 R（後進）

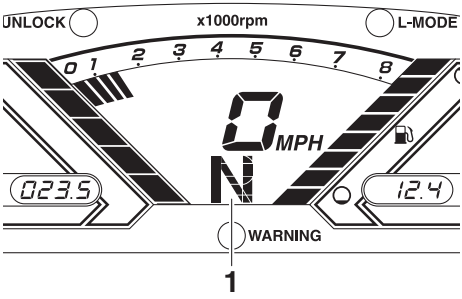
後進からニュートラルにするときは：
RiDEレバーを放すと、自動的にリバースゲートがニュートラル位置になります。シフトインジケーターは “N” を表示します。



1 RiDE レバー



1 リバースゲート
2 ニュートラル位置

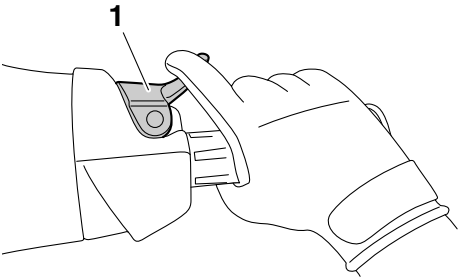


1 N（ニュートラル位置）

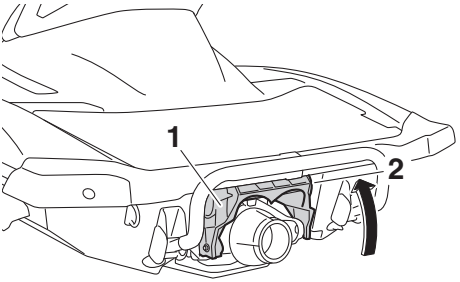
要　点：
ニュートラルにすると、多少動く可能性がありますが、エンジン運転中でもマリンジェットがその場に停止します。

前進にするときは：
(1) RiDE レバーを放します。
(2) スロットルレバーを握ると、リバースゲートが完全に上がり、エンジン回転数

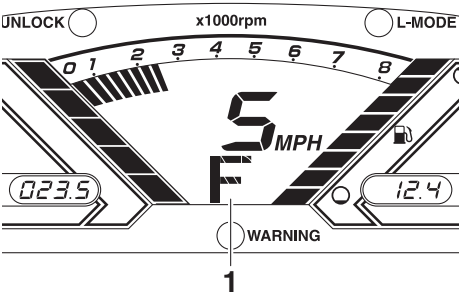
が上昇し、前進を開始します。シフトインジケーターは “F” を表示します。



1 スロットルレバー



1 リバースゲート
2 前進位置



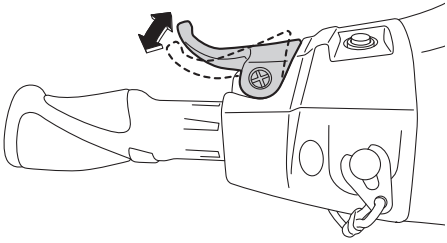
1 F（前進）

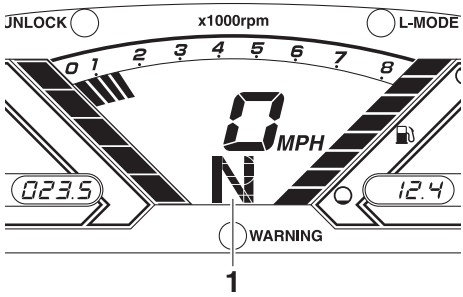
要　点：

スロットルレバーを握ったまま RiDE レバーを握ると、減速し、一旦停止した後、後進します。

前進からニュートラルにするときは：

(1) スロットルレバーを放します。
(2) RiDE レバーを軽く握り、放します。シフトインジケーターは “N” を表示します。





1 N（ニュートラル位置）

要　点：

RiDE レバーを握り続けると、リバースゲートは後進位置になります。

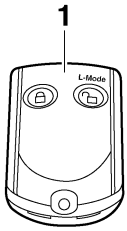
JJU40001

航走モード

JJU43820

ロー RPM モード（L- モード）

L- モードは、エンジンの最高回転数を通常時の約 90% に抑える機能です。
艇体に付属のリモートコントロールトランスミッター（以下トランスミッター）を操作すると、L- モードの作動と解除を行なうことができます。（トランスミッターについては 23 ページを参照ください。）



1 リモートコントロールトランスミッター

要　点：

L- モードの作動は、ヤマハセキュリティシステムがロック解除状態でエンジンが停止中にのみ行なえます。

L- モードの作動と解除

L- モードの作動確認は、トランスミッターを操作したときに鳴るブザーの回数とマルチファンクションメーターの“L-MODE”表示灯によって行います。（マルチファンクションメーターについては 36 ページを参照ください。）

ブザーの回数	L- モードの状態	“L-MODE” 表示灯
● ● ●	作動	点灯
● ●	解除	消灯

要　点：

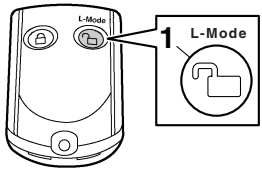
マルチファンクションメーターが待機状態のときにトランスミッターを操作すると、マルチファンクションメーターは初期動作後、各機能設定を実行します。

L- モードを作動するときは：

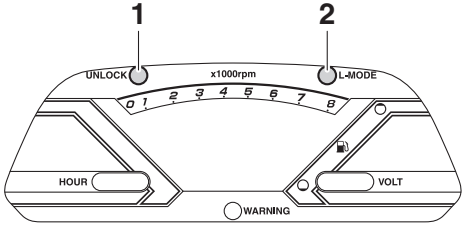
トランスミッターの “L-Mode”（アンロック）ボタンを 4 秒以上押します。ブザーが 3 回鳴り “UNLOCK” 表示灯が 3 回点滅の後点灯し、“L-MODE” 表示灯が点灯して L- モードが作動します。

要　点：

インフォメーションディスプレイ消灯直後に L- モードを作動したときは、“L-MODE” 表示灯は点灯しません。エンジンを始動すると “L-MODE” 表示灯が点灯します。



1 “L-Mode”（アンロック）ボタン



1 “UNLOCK” 表示灯
2 “L-MODE” 表示灯

L- モードを解除するときは：
トランスミッターの “L-Mode” (アンロック) ボタンを 4 秒以上押します。ブザーが 2 回鳴り “UNLOCK” 表示灯が 2 回点滅の後点灯し、“L-MODE” 表示灯が消灯して L- モードが解除されます。L- モードが解除されると通常の航走状態に戻ります。

JJU42484
ノーウェイクモード
ノーウェイクモードは、定められたエンジン回転数を維持して低速航行できる機能です。この機能は前進航走時とシフトがニュートラル時に設定できます。

要　点：
- ノーウェイクモードの作動は、エンジン始動後 5 秒以上経過後にのみ行なえます。
- ニュートラル時にノーウェイクモードを設定すると、リバースゲートが前進位置になります。

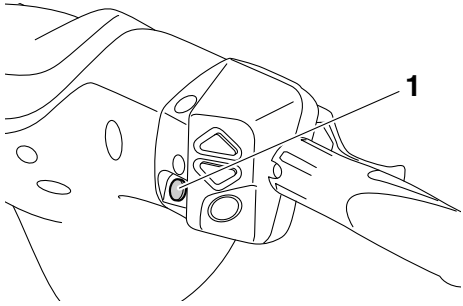
ノーウェイクモードの作動と解除
ノーウェイクモードの作動確認は、“NO-WAKE MODE” スイッチを操作したときに鳴るブザーの回数と、マルチファンクションメーターのデジタルスピードメーター表示によって行います。(マルチファンクションメーターについては 36 ページを参照ください。)

ブザーの回数	ノーウェイクモードの作動	デジタルスピードメーター表示
● ● ●	作動開始	点滅開始
● ●	作動解除	点滅停止

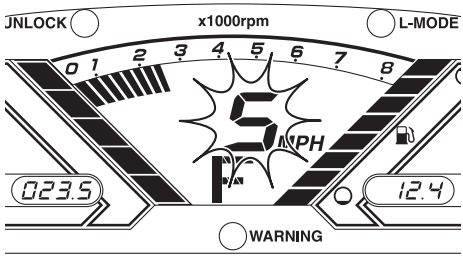
要　点：
ブザーとデジタルスピードメーターの点滅は、クルーズアシストの作動時にも表示されます。(クルーズアシストについては 34 ページを参照ください。)

ノーウェイクモードを作動するときは：
(1) スロットルレバーを放して、エンジン回転数をアイドリング回転数にします。
(2) “NO-WAKE MODE” スイッチを長押しします。ブザーが短く 3 回鳴りデジタルスピードメーター表示の “8” (“km/h” 選択時) または “5” (“mph” 選択時) が点滅し、ノーウェイクモードが作動します。ノーウェイクモード作動中は、スロットルレバーは全閉状態を保ってください。

要　点：
ノーウェイクモード作動中は、デジタルスピードメーター表示は点滅しています。



1 “NO-WAKE MODE” スイッチ



ノーウェイクモードを解除するときは：
以下の操作のいずれかを行なうと、ブザーが短く 2 回鳴り、デジタルスピードメーター表示が点滅から点灯に戻り、ノーウェイクモードが解除されます。
- “NO-WAKE MODE” スイッチを押す
- スロットルレバーを握る
- RiDE レバーを握る

要　点：

エンジンを停止した場合もノーウェイクモードは解除されます。

JJU43980

クルーズアシスト

クルーズアシストは、一定の範囲内で任意に設定したエンジン回転数を維持して航行できる機能です。

要　点：

- 設定可能な回転数は、約 4000 r/min から約 7000 r/min の範囲内です。
- クルーズアシストは、L- モード時には作動できません。（L- モードの作動については 32 ページを参照ください。）

クルーズアシストの作動と解除

クルーズアシストの作動確認は、“SET” スイッチまたはクルーズアシストアップスイッチ、クルーズアシストダウンスイッチを操作したときに鳴るブザーの回数と、マルチファンクションメーターのデジタルスピードメーター表示によって行います。（マルチファンクションメーターについては 36 ページを参照ください。）

ブザーの回数	クルーズアシストの作動	デジタルスピードメーター表示
● ● ●	作動開始	点滅開始
● ●	作動解除	点滅停止
●	設定回転数 UP または DOWN	点滅継続

要　点：

ブザーとデジタルスピードメーターの点滅は、ノーウェイクモードの作動時にも表示されます。（ノーウェイクモードについては 33 ページを参照ください。）

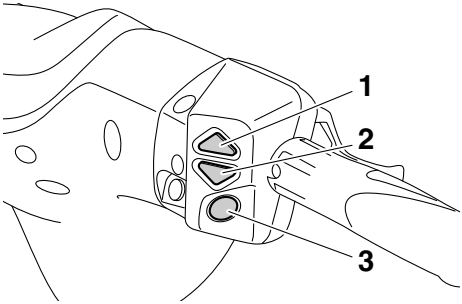
クルーズアシストを作動するときは：

(1) 設定したい回転数に達するまで、スロットルレバーを操作します。
(2) 設定したい回転数に到達したら、“SET” スイッチを押します。ブザーが短く 3 回鳴りデジタルスピードメーター表示が点滅し、クルーズアシストが作動します。クルーズアシストが作動したらスロットルレバーをゆっくり握り、設定時のスロットルレバー位置よりも握りこんだ状態を保ってください。スロットルレバーを放すとクルーズアシストは解除されます。

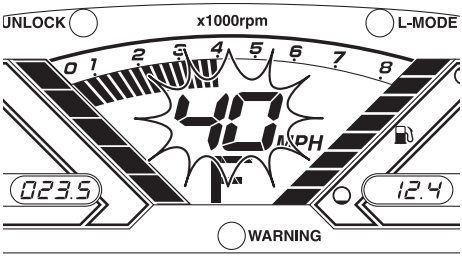
要　点：

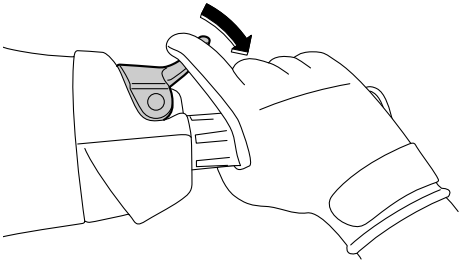
クルーズアシスト作動中は、デジタルスピードメーター表示は点滅しています。スロットルレバーを握りこむ前に、ブザーが鳴ってスピードメーター表示が点滅していることを確認してください。スピードメーター表示が点滅していない場合はクルーズアシストは

作動していないため、エンジンはスロットル操作に対して通常通りに反応します。



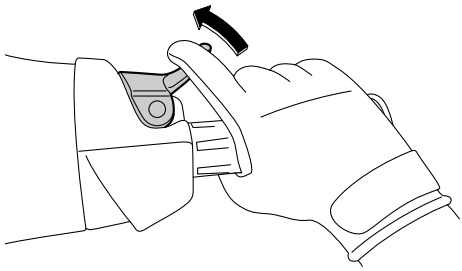
1 クルーズアシストアップスイッチ
2 クルーズアシストダウンスイッチ
3 “SET” スイッチ





要　点：
クルーズアシスト作動中にクルーズアシストアップまたはクルーズアシストダウンスイッチを押すと、設定回転数を調整することができます。スイッチを押すごとに、ブザーが短く 1 回鳴り、設定回転数が上昇または下降します。設定回転数の調整は上下それぞれ最大 5 段階までです。

クルーズアシストを解除するときは：
スロットルレバーを戻します。ブザーが短く 2 回鳴り、スピードメーター表示が点滅から点灯に変わり、クルーズアシストが解除されます。

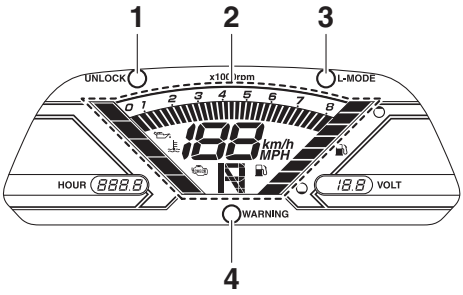


要　点：
エンジンを停止した場合もクルーズアシストは解除されます。

JJU43760

マルチファンクションメーター

マルチファンクションメーターは、マリンジェットの様々な状態を表示します。



1 “UNLOCK” 表示灯
2 インフォメーションディスプレイ
3 “L-MODE” 表示灯
4 “WARNING” 表示灯

マルチファンクションメーターの初期動作

マルチファンクションメーターが起動すると、インフォメーションディスプレイの全セグメントが点灯します。約 2 秒後、インフォメーションディスプレイの警告インジケーターが消灯し、通常の作動を開始します。マルチファンクションメーターのみが起動した場合は、“WARNING” 表示灯が 1 回点滅します。

要　点：

マルチファンクションメーターの初期動作時に “UNLOCK” 表示灯が点灯します。
エンジンを始動すると、“UNLOCK” 表示灯は消灯します。

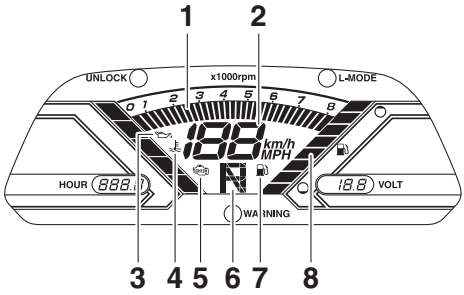
マルチファンクションメーターの待機動作

マルチファンクションメーターは、エンジン停止後約 25 秒間操作入力がない場合、消灯して待機状態に入ります。エンジンを始動すると、消灯前の状態に復帰し通常の作動を開始します。

JJU35027

インフォメーションディスプレイ

インフォメーションディスプレイはマリンジェットの航行に関する状態を表示します。

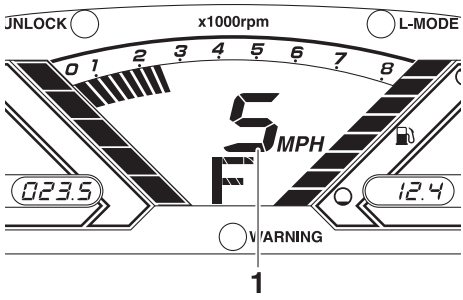


1 タコメーター
2 スピードメーター
3 油圧警告インジケーター
4 オーバーヒート警告インジケーター
5 チェックエンジン警告インジケーター
6 シフトインジケーター
7 燃料残量警告インジケーター
8 燃料計

JJU43832

スピードメーター

スピードメーターはマリンジェットの対水速度を表示します。



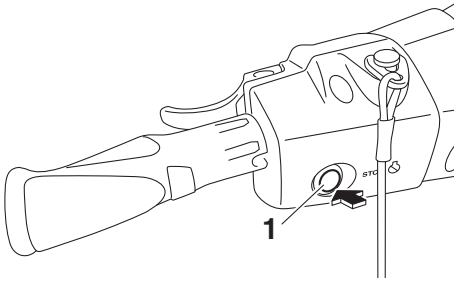
1 スピードメーター

切り替え操作により、“km/h” と “MPH” のどちらか一方を表示します。

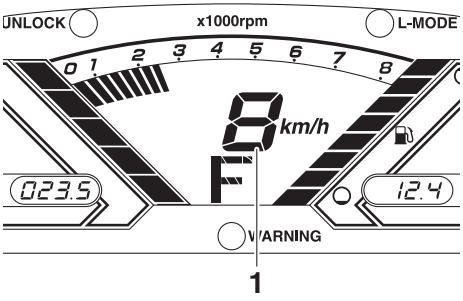
要　点：

工場出荷時は “MPH” が選択されています。

スピードメーターの表示を切り替えるときは：
エンジン停止後、マルチファンクションメーターが消灯するまでに、エンジンストップスイッチを 0.4 秒以上ずつ 3 回押すと、スピードメーター表示が切り替わります。
再度スピードメーター表示を切り替えるには、一度エンジンを始動した後、エンジンを停止して同様の操作を行なってください。

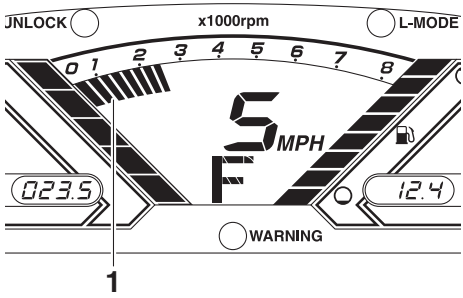


1 エンジン停止スイッチ



1 スピードメーター

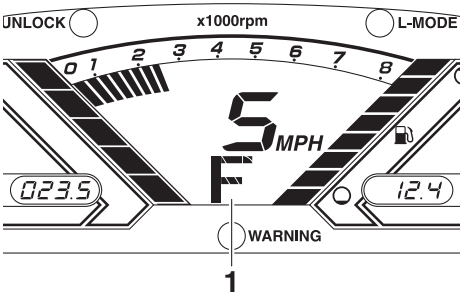
JJU31464
タコメーター
タコメーターはエンジン回転数を表示します。
メーター外側の数字×1000 r/min とセグメントがエンジン回転数を示します。



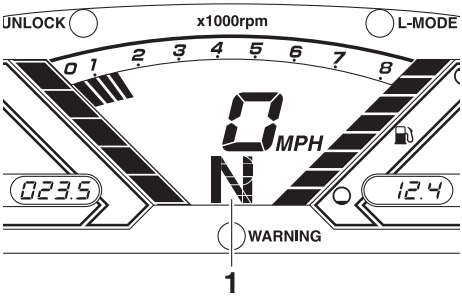
1 タコメーター

JJU43891
シフトインジケーター
リバースゲートのシフト位置を表示します。前進は “F”、ニュートラル位置は “N”、後進

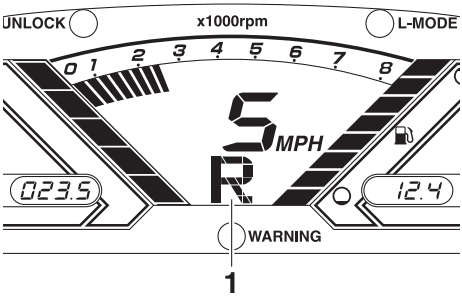
は “R” で表示します。（シフトの操作については 29 ページを参照ください。）



1 F（前進）



1 N（ニュートラル位置）



1 R（後進）

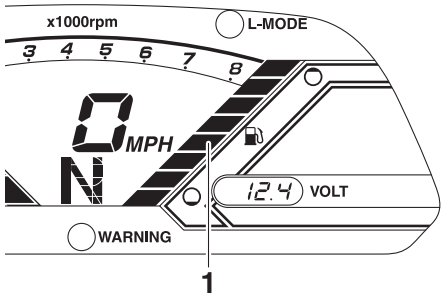
JJU31515

燃料計

燃料計は燃料タンク内の燃料残量を表示します。燃料残量は 8 つのセグメントで表示され、燃料が減るにつれて 2 セグメントずつ消灯します。

要　点：

燃料残量表示は航走状況によって異なることがあります。あくまで参考としてください。

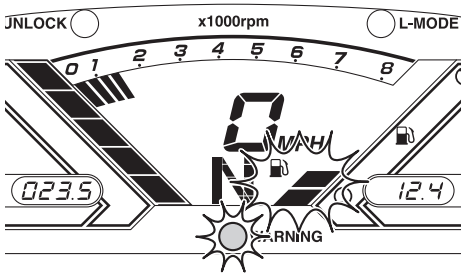


1 燃料計

JJU44020

燃料残量警告

燃料残量が約 18 L 以下になると、最低残量を示す2つのセグメントと燃料残量警告インジケーター、および “WARNING” 表示灯が点滅し、ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。



燃料残量警告が作動した場合は、できるだけ早く燃料を給油してください。（燃料の給油については 47 ページを参照ください。）

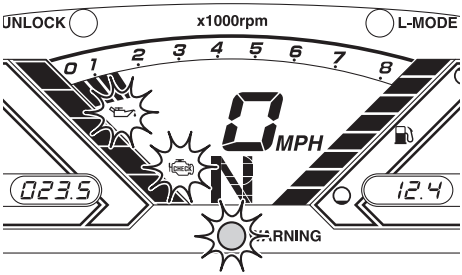
燃料を給油後、エンジンを再始動すると警告は解除されます。

JJU43720

油圧警告

油圧が著しく低下すると、油圧警告インジケーターとチェックエンジン警告インジケーター、“WARNING” 表示灯が点滅し、ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。同時にエ

ンジンの最高回転数を下げる制御が働きます。

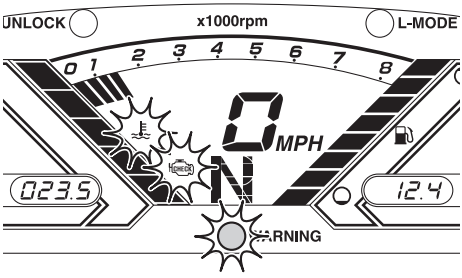


油圧警告が作動した場合は、ただちにエンジン回転数を下げ、マリンジェットを着岸させ、エンジンオイル量を点検します。（エンジンオイル量の点検については 49 ページを参照ください。）エンジンオイルが適量の場合は、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

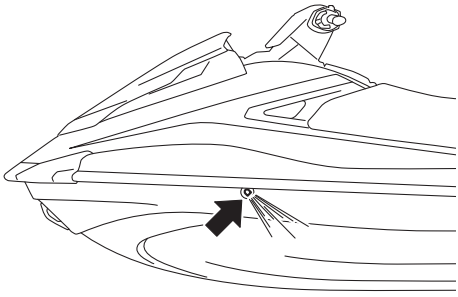
JJU43901

オーバーヒート警告

エンジン温度が著しく上昇すると、オーバーヒート警告インジケーターとチェックエンジン警告インジケーター、“WARNING” 表示灯が点滅し、ブザーが断続的に鳴ります。5 秒後、オーバーヒート警告インジケーターと “WARNING” 表示灯が点灯に変わり、ブザーが連続音に変わります。警告作動から 30 秒が経過すると、ブザーは停止します。警告が作動している間、エンジンの最高回転数を下げる制御が働きます。



オーバーヒート警告が作動した場合は、ただちにエンジン回転数を下げ、マリンジェットを着岸させ、エンジン運転中に冷却水点検孔から冷却水が排水されていることを確認します。排水されていない場合は、エンジンを停止させてから、ジェットインテークに異物が詰まっていないか点検してください。（ジェットインテークについては88ページを参照ください。）***注意：*****オーバーヒートの原因が判らないときは、ヤマハ取扱店にご相談ください。そのまま高速運転を続けると、重大なエンジン損傷の原因となります。**[JCJ00042]

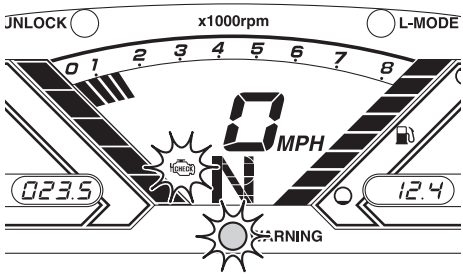


JJU43731

チェックエンジン警告

各種センサーの故障、断線等の異常を検知すると、チェックエンジン警告インジケーターと “WARNING” 表示灯が点滅し、ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。

チェックエンジン警告が作動した後にエンジンを停止すると、ディスプレイにエラーコードが表示されます。



チェックエンジン警告が作動した場合は、ただちにエンジン回転数を下げ、マリンジェットを着岸させ、ヤマハ取扱店で点検を受けてください。

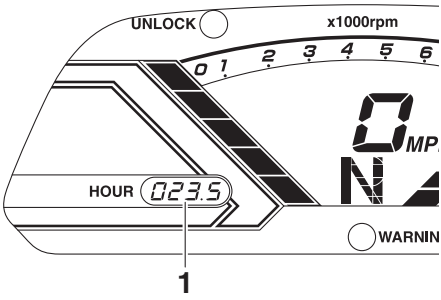
JJU43740

アワーメーター

アワーメーターはエンジン累積運転時間を表示します。

要　点：

バッテリーを外しても累積運転時間は保存されます。



1 アワーメーター

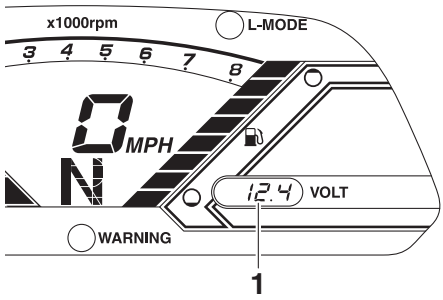
JJU43751

ボルトメーター

ボルトメーターはバッテリーの電圧を表示します。

通常は約 12 V を示しています。

バッテリーの電圧が著しく低下すると “Lo” と表示され、インフォメーションディスプレイとアワーメーター、各表示灯が全て消灯します。バッテリーの電圧が著しく上昇すると “HI” と表示されます。“Lo” または “HI” が表示されたときは、ただちにマリンジェットを着岸させ、ヤマハ取扱店で整備を受けてください。



1 ボルトメーター

JJU40334

装備品

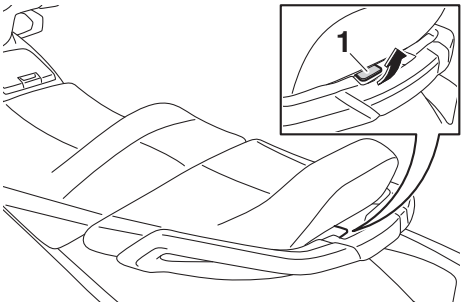
JJU42203

シート

シートは取り外すことができます。
シートを取り外すと、エンジンルームと着脱式防水物入れにアクセスできます。

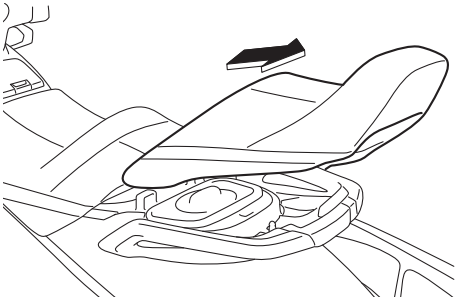
リヤシートを取り外すときは：

(1) シートラッチを引き上げ、シート後部を持ち上げます。



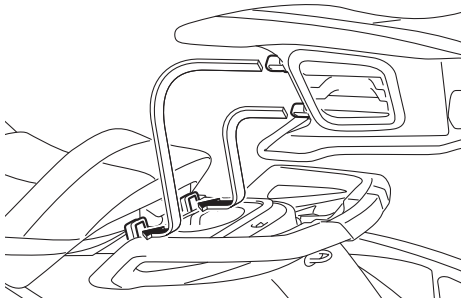
1 シートラッチ

(2) シートを後方に引いて取り外します。

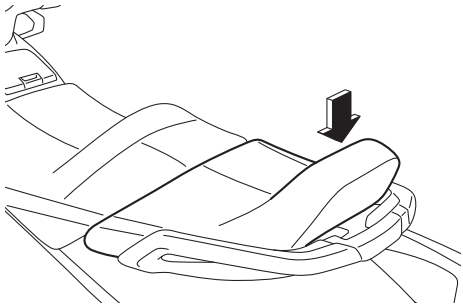


リヤシートを取り付けるときは：

(1) シート前部の突起部を艇体側のステーの下側に嵌めます。

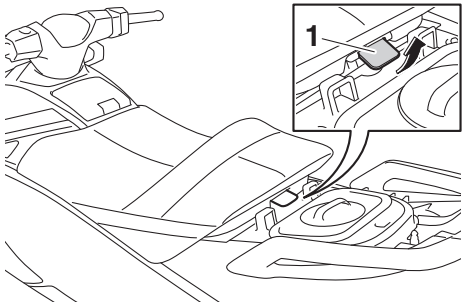


(2) シート後部を押し下げ、シートを確実に固定します。



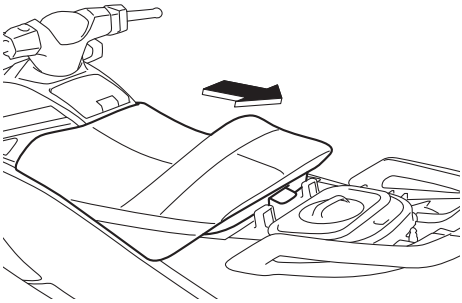
フロントシートを取り外すときは：

(1) リヤシートを取り外します。
(2) シートラッチを引き上げ、シート後部を持ち上げます。



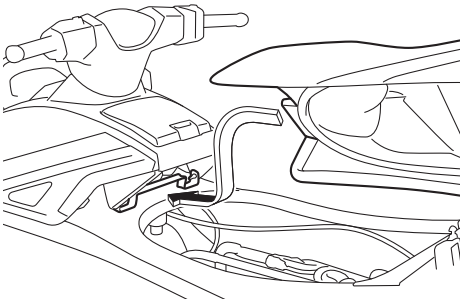
1 シートラッチ

(3) シートを後方に引いて取り外します。

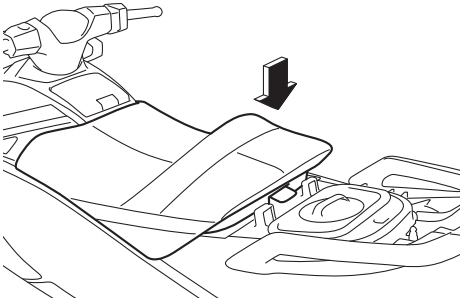


フロントシートを取り付けるときは：

(1) シート前部の突起部を艇体側のステーの下側に嵌めます。



(2) シート後部を押し下げ、シートを確実に固定します。

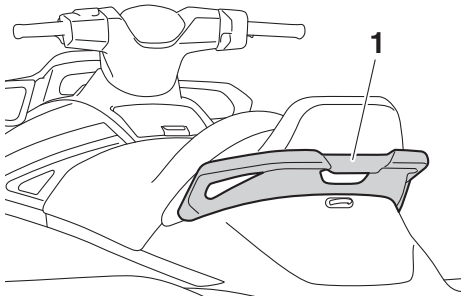


(3) リヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU31364

ハンドグリップ

ハンドグリップは水中からマリンジェットへ乗船する場合や、プレーヤー監視者が後ろ向きに座る場合に使用します。**警告！ ハンドグリップを使用して艇体を吊り上げないでください。ハンドグリップは艇体の重量を支えられるように設計されていないため、壊れて艇体が落下し、大きな怪我を負う恐れがあります。**[JWJ00022]



1 ハンドグリップ

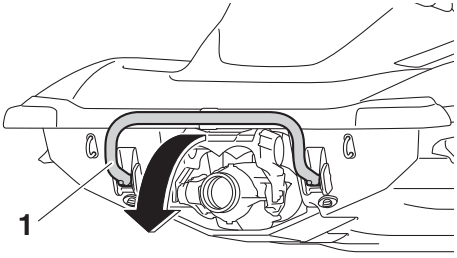
JJU34865

リボーディングステップ

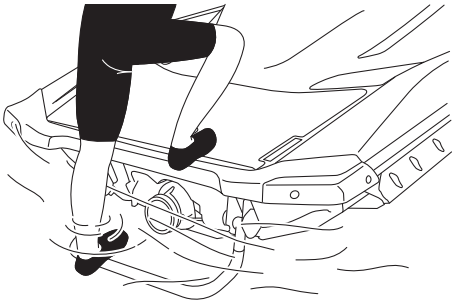
リボーディングステップは、水中からマリンジェットへ乗船する場合に補助として使用することができます。

乗船時はリボーディングステップを止まるまで押し下げます。リボーディングステップから手を放すと、自動的に元の位置に戻ります。**警告！ リボーディングステップを使用して艇体を吊り上げないでください。リボーディングステップは艇体の重量を支えられるように設計されていないため、壊れて艇体**

が落下し、大きな怪我を負う恐れがあります。[JWJ01212]



1 リボーディングステップ



JCJ00743

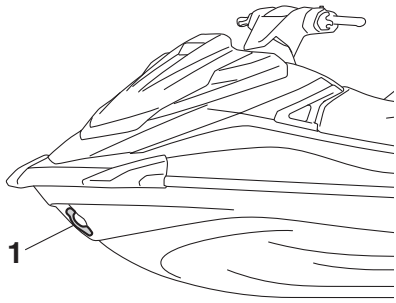
注 意

リボーディングステップは水中からの乗船時のみに使用してください。リボーディングステップをその他の用途に使用しないでください。損傷する恐れがあります。

JJU34873

バウアイ

バウアイは、マリンジェットを運搬・係留する場合や、緊急時の曳航を行なう場合にロープを取り付けて使用します。（マリンジェットの曳航については 90 ページを参照ください。）

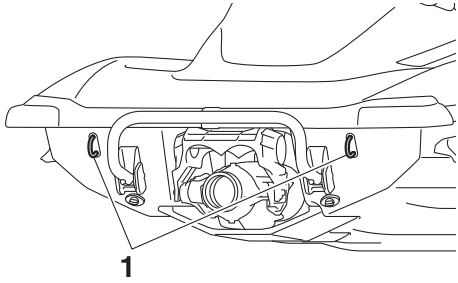


1 バウアイ

JJU34882

スターンアイ

スターンアイは、マリンジェットを運搬・係留する場合にロープを取り付けて使用します。



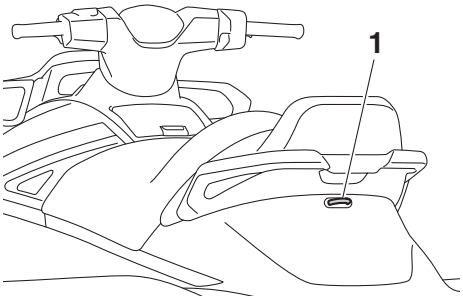
1 スターンアイ

JJU40423

クリート

クリートは、ウェイクボード／水上スキーを行なう場合にロープを取り付けて使用します。**警告！ クリートを使用して艇体を吊り上げないでください。クリートは艇体の重量を支えられるように設計されていないため、**

壊れて艇体が落下し、大きな怪我を負う恐れがあります。[JWJ01511]



1 クリート

JJU35148

物入れ

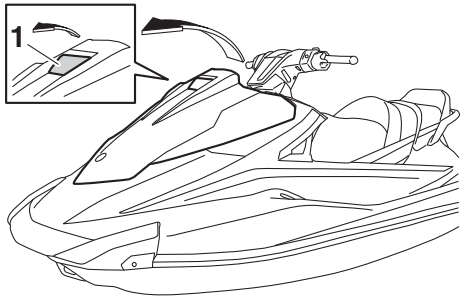
マリンジェットには、数種類の物入れが装備されています。
確実に閉められた防水物入れのみが、防水構造になります。船舶検査証書、船舶検査手帳、取扱説明書等、水に濡れて困るものは防水バッグに入れて携行してください。
操船前に各物入れが確実に閉まっていることを確認してください。

JJU43770

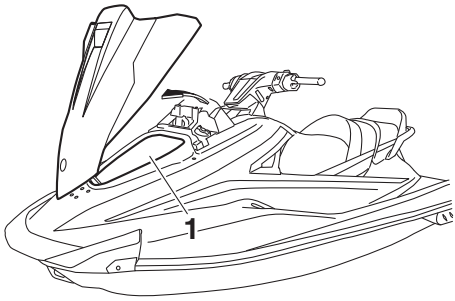
バウ物入れ

バウ物入れがフードの下に装備されています。

バウ物入れを開けるときは：
フードラッチを引き上げ、フードの後部を持ち上げます。



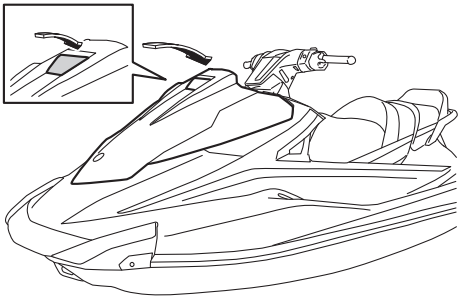
1 フードラッチ



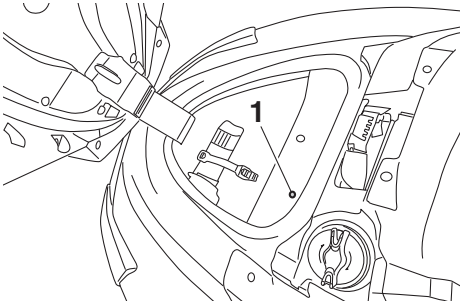
1 バウ物入れ

バウ物入れ：
容量：
72.0 L
制限重量：
5.0 kg

バウ物入れを閉めるときは：
フードを元の位置に戻し、フードラッチを押し下げて確実に固定します。



バウ物入れに溜まった水を排水するときは：
(1) 底部にあるドレンキャップを取り外し、エンジンルーム内に排水します。



1 ドレンキャップ

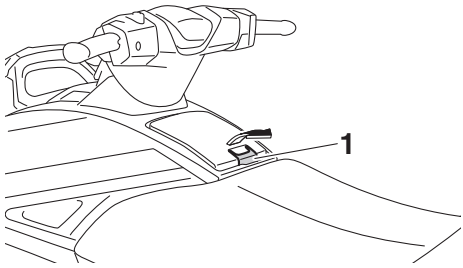
(2) ドレンキャップを元のように確実に取り付けます。

JJU43781

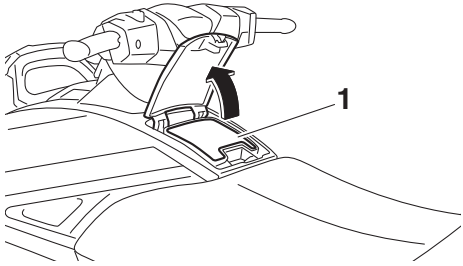
グローブボックス

グローブボックスがフロントシートの前に装備されています。

グローブボックスを開けるときは：
グローブボックスラッチを引き上げ、フタを開けます。



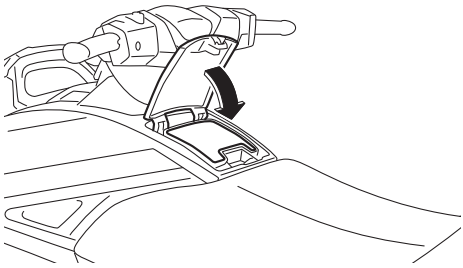
1 グローブボックスラッチ



1 グローブボックス

グローブボックス：
容量：
3.4 L
制限重量：
1.5 kg

グローブボックスを閉めるときは：
フタを押し下げ、確実に固定します。



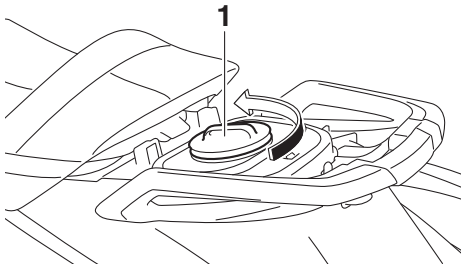
JJU37235

着脱式防水物入れ

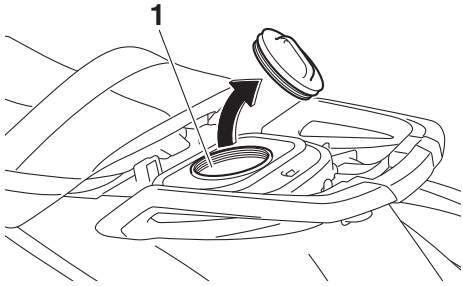
着脱式防水物入れがリヤシートの下に装備されています。
確実にキャップを閉めることにより防水構造となります。
着脱式防水物入れを開けるときは：

(1) リヤシートを取り外します。（シートの脱着方法については 41 ページを参照ください。）

(2) キャップを緩めて取り外します。



1 キャップ



1 着脱式防水物入れ

着脱式防水物入れ：
容量：
5.8 L
制限重量：
3.0 kg

着脱式防水物入れを閉めるときは：

(1) キャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。
(2) リヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU31823

燃料について

JJU43641

燃料

JWJ00283

⚠警 告

- **ガソリンは高い引火性と爆発性があります。火災や爆発の危険、給油時の負傷を避けるために、以下の指示に従ってください。**
- **ガソリンは有毒であり、傷害や死亡の原因となります。取り扱いには十分に注意をしてください。ガソリンを口で吸い出さないでください。飲み込んだり、目に入ったり、または多量の揮発蒸気を吸い込んだ場合は、ただちに医師の診断を受けてください。皮膚に付着した場合は、ただちに石鹸等を使って洗い流してください。衣類に付着した場合は、着替え等を行なってください。**

JCJ00322

注 意

- **有鉛ガソリンは使用しないでください。有鉛ガソリンはエンジンに大きな損傷を与える恐れがあります。**
- **燃料タンクに水や他の異物が混入しないように注意して給油してください。異物の混ざった燃料は、エンジンの作動不良や損傷の原因となります。ガソリンは必ず新しいものを使用してください。**

推奨燃料：
無鉛レギュラーガソリン

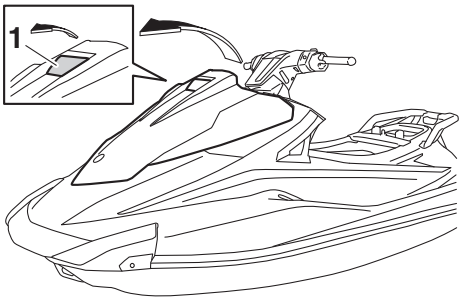
<u>燃料を給油するときは：</u>

(1) 給油はエンジンを停止してから行なってください。マリンジェットに乗船したまま給油しないでください。給油中はタバコを吸わないでください。また、他の火気を近づけないでください。

(2) マリンジェットを換気のいい場所に水平に置きます。

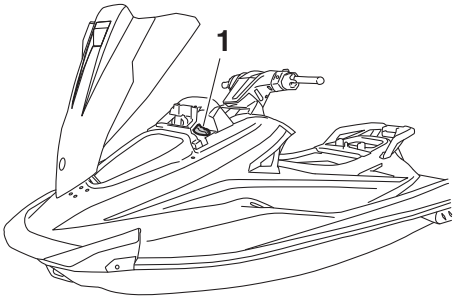
(3) リヤシートとフロントシートを取り外し、燃料タンクの燃料残量を確認します。（シートの脱着方法については 41 ページを参照ください。）

(4) フードラッチを引き上げ、フードの後部を持ち上げます。



1 フードラッチ

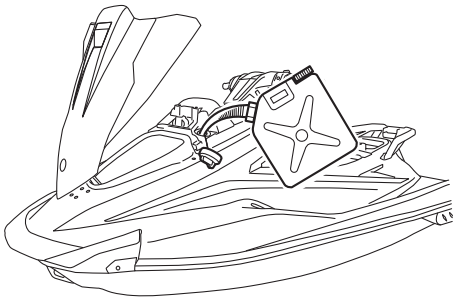
(5) 燃料フィラーキャップを緩めて取り外します。



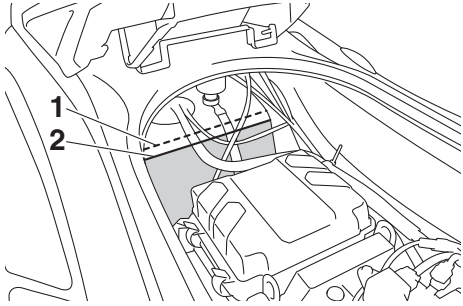
1 燃料フィラーキャップ

(6) 燃料をゆっくりと給油します。

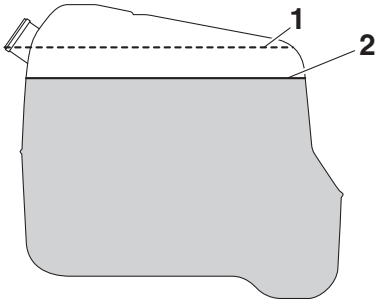
燃料タンクの容量：
70 L



(7) 燃料タンク上面から約 50 mm の位置に燃料が達したら、給油を止めます。燃料は入れ過ぎないようにしてください。燃料は温度上昇とともに膨張して溢れる恐れがあります。燃料タンクが満タンの状態で、マリンジェットを直射日光の下に放置しないでください。



1 燃料タンク上面
2 燃料タンク上面から約 50 mm



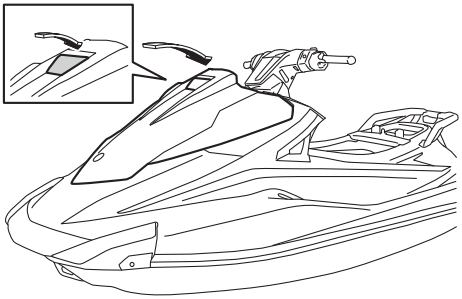
1 燃料タンク上面
2 燃料タンク上面から約 50 mm

(8) こぼれたガソリンはただちに乾いた布で拭き取ります。

(9) 燃料フィラーキャップをカチッと音がするまで締め込み、確実に取り付けます。

(10) フードを元の位置に戻し、フードラッチを押し下げて確実に固定します。マリンジェットを使用する前には、燃料フィ

ラーキャップとフードが確実に閉まっていることを確認します。



(11) フロントシートとリヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU40291

エンジンオイルについて

JJU43950

エンジンオイル

JCJ00282

注 意

4ストロークエンジンオイルを使用してください。2ストロークエンジンオイルを使用すると、エンジンに損傷を与える恐れがあります。

推奨エンジンオイルタイプ：
SAE 10W-30, 10W-40, 20W-40, 20W-50
推奨エンジンオイルグレード：
API SG, SH, SJ, SL

エンジンオイル量の点検

JWJ00341

⚠警 告

エンジン停止直後は、オイルが大変熱くなっています。エンジン停止直後のオイルが衣服にかかったり、身体に触れたりすると火傷をする恐れがあります。

JCJ00392

注 意

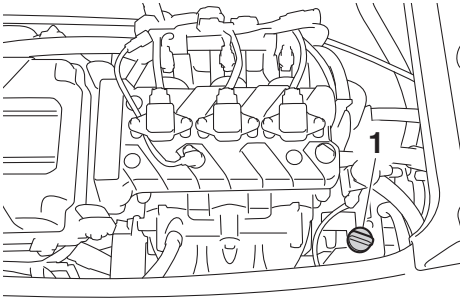
- **エンジンオイルを入れすぎたり、著しく少ない状態で運転しないでください。エンジン損傷の原因となります。**
- **給油口からゴミや水等が入らないようにしてください。オイルからエンジン内部に入り、エンジンが損傷する恐れがあります。**

要 点：

- 陸上でエンジンオイル量を点検する場合は、エンジン冷却経路に水道水を供給し、エンジンを運転する必要があります。（水道水の供給については 75 ページの “ エンジン冷却経路の水洗 ” を参照ください。）
- 水上でエンジンオイル量を点検する場合は、マリンジェットが流されないよう、係留してください。

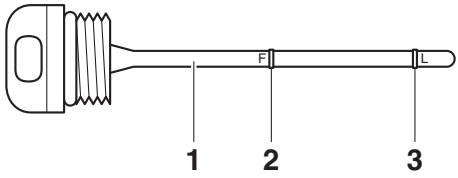
エンジンオイル量を点検するときは：

(1) エンジンが停止した状態で、マリンジェットを陸上に正確に水平に置く、または進水させます。
(2) 周囲を確認し、エンジンを始動します。（エンジンの始動については64ページを参照ください。）
(3) アイドリング回転数で6分間以上運転します。周囲の外気温が 20ºC 以下の場合は、さらに 5 分間暖機運転を行なってください。
(4) エンジンを停止します。
(5) リヤシートとフロントシートを取り外します。（シートの脱着方法については 41 ページを参照ください。）
(6) オイルタンクフィラーキャップを緩めて取り外し、一体になったオイルレベルゲージに付着しているオイルを拭き取ります。



1 オイルタンクフィラーキャップ／オイルレベルゲージ

(7) オイルタンクフィラーキャップを止まるまで締め込みます。その後再び取り外してエンジンオイルの油面がオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの間にあるかを確認します。



1 オイルレベルゲージ
2 上限マーク
3 下限マーク

(8) 油面が上限マークを著しく超えてしまっている場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。油面が下限マークに満たない場合は、エンジンオイルをゆっくりと補充します。
(9) 適正なオイル量になるまで、上記 (6) から (8) を繰り返します。
(10) オイルタンクフィラーキャップを止まるまで締め込み、確実に取り付けます。
(11) フロントシートとリヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU40022

ビルジの排水

JCJ01302

注 意

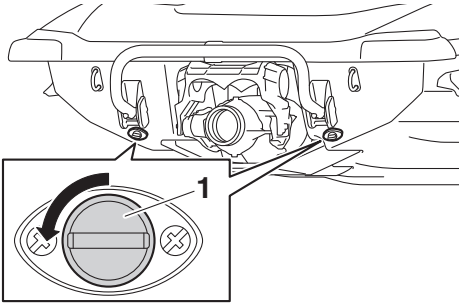
エンジンルーム内にビルジが溜まっている場合は、エンジン回転数を最高回転数まで上げないでください。ビルジが飛び散ってエンジン内に浸入し、故障の原因となります。

JJU44260

陸上でのビルジ排水

陸上でビルジを排水するときは：

(1) ドレンプラグを緩めて取り外します。

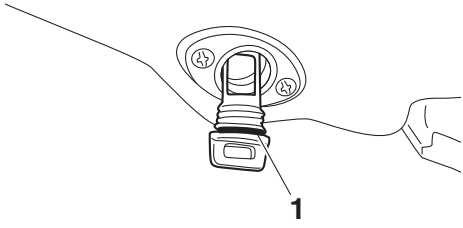


1 ドレンプラグ

(2) スロープ等を用い、マリンジェットの船首の角度を高くしエンジンルーム内のビルジを排水します。

(3) ドレンプラグ孔からの排水後、エンジンルーム内に残ったビルジを乾いた布で拭き取ります。

(4) ドレンプラグとOリングが損傷していないか、O リングとねじ部分に異物が付着していないかを確認してください。***注意：*****ドレンプラグを取り付ける前に、O リングとネジ部分のゴミや砂などの異物を取り除いてください。異物を取り除いていないと、ドレンプラグが損傷し、エンジンルーム内に浸水する恐れがあります。マリンジェットを進水する前には、必ず O リングの点検とドレンプラグが確実に取り付けられていることを確認してください。確実に取り付けられていないと、エンジンルーム内に浸水しマリンジェットが水没する恐れがあります。**[JCJ00363]



1 O リング

(5) ドレンプラグを止まるまで締め込み確実に取り付けます。

JJU40535

水上でのビルジ排水

水上でのビルジ排水後は、エンジンルーム内に多少のビルジが残ります。完全に排水するときは、マリンジェットを陸揚げし陸上でのビルジ排水を行なってください。

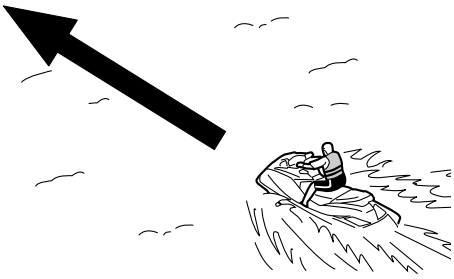
ジェット負圧式ビルジ排水システム

マリンジェット航走中にジェットポンプ内で発生する負圧により、エンジンルーム内のビルジが吸い出され、ジェットノズルから船外に排水されます。

水上でビルジを排水するときは：

プレーニング速度を維持し、2 分間以上直進で航走します。***注意：*****エンジン再始動後 1 分間は、エンジン回転数を最高回転数まで上げないでください。溜まっているビルジが飛び**

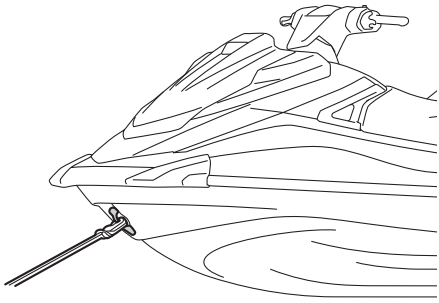
散ってエンジン内に浸入し、故障の原因となります。[JCJ00554]

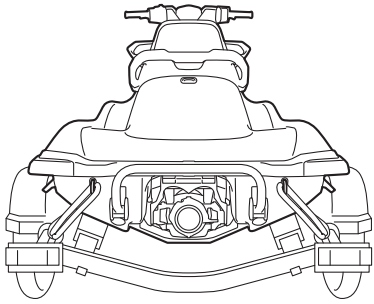


JJU42432

トレーラーでの運搬

マリンジェットをトレーラーに積んで運ぶときは、バウアイとスターンアイを使ってロープまたは固定器具でトレーラーに固定します。***注意：*マリンジェットを固定するときは、バウアイとスターンアイ以外を使用しないでください。損傷の恐れがあります。傷や損傷を防止するために、ロープや固定器具がマリンジェット本体に接する箇所にはタオル等の適当な保護具を当ててください。**[JCJ02150]





JJU32786

慣らし運転

JCJ00432

注 意

慣らし運転を怠ると、構成部品の寿命が縮むばかりでなくエンジンに損傷を与える恐れがあります。

エンジン構成部品等の摺動面を均一に摺り合せるために、慣らし運転が必要です。慣らし運転を行なうことにより、安定した性能が得られるとともに各部品の寿命も延びます。
慣らし運転を行なうときは：

(1) エンジンオイル量を点検します。（エンジンオイル量の点検については 49 ページを参照ください。）
(2) マリンジェットを進水し、エンジンを始動します。（エンジンの始動については 64 ページを参照ください。）
(3) 最初にアイドリング回転数で5分間航走します。
(4) 次に 5000 r/min 以下で 30 分間航走します。
(5) 次に6500 r/min以下で1時間航走します。

慣らし運転完了後、通常の航走が行なえます。

JJU31982

JWJ00412

⚠警 告

点検整備を正しく行なわないと、事故や故障の原因となる恐れがあります。1つでも不具合が見つかったときは、マリンジェットを使用しないでください。本書に記載の手順を行なっても不具合が解決しない場合は、ヤマハ取扱店で整備を受けてください。

JJU41234

使用前点検チェックリスト

マリンジェットを使用する前に、必ずチェックリストに基づき点検を行なってください。

項目	点検方法	参照ページ
進水前の点検		
エンジンルーム	エンジンルームの換気を行ないます。 エンジンルーム内に損傷がないことを確認します。	56
燃料系統	燃料系統に漏れがないことを確認します。 燃料タンク内の燃料残量を確認します。	56
水分離器	水分離器内に水が溜まっていないことを確認します。	56
エンジン外観	エンジン外観に損傷がないことを確認します。	56
エンジンオイル量	エンジンオイル量を確認します。	57
ビルジ	エンジンルーム内にビルジが溜まっていないことを確認します。	57
バッテリー	バッテリーの接続状態と液量を確認します。	57
ステアリングシステム	ステアリングシステムが正常に作動することを確認します。	58
RiDE レバー	RiDE レバーが正常に作動することを確認します。	59
スロットルレバー	スロットルレバーが正常に作動することを確認します。	59
リモートコントロールトランスミッター	リモートコントロールトランスミッターが正常に作動することを確認します。	59
緊急エンジン停止コード（ランヤード）	緊急エンジン停止コード（ランヤード）に損傷がないことを確認します。	59
スイッチ類	エンジン始動スイッチ、エンジン停止スイッチおよび緊急エンジン停止スイッチが正常に作動することを確認します。	59
物入れ	各物入れに損傷がないこと、また水が溜まっていないことを確認します。	60
法定備品	使用可能条件を満たしている法定備品が、搭載されていることを確認します。	60
艇体外観	艇体外観に損傷がないことを確認します。	60
ジェットインテーク	ジェットインテークに損傷がないこと、また異物の付着や詰まりがないことを確認します。	60
ジェットノズル周辺	ジェットノズルとリバースゲートに損傷がないことを確認します。	60
ドレンプラグ	ドレンプラグに異物の付着や損傷がないこと、また確実に取り付けられていることを確認します。	60
フード	フードが確実に固定されていることを確認します。	61

使用前の点検

項目	点検方法	参照ページ
フロントシートとリヤシート	フロントシートとリヤシートが確実に固定されていることを確認します。	41
進水後の点検		
冷却水点検孔	冷却水点検孔から冷却水が排水されていることを確認します。	61
マルチファンクションメーター	マルチファンクションメーターが正常に作動することを確認します。	61
シフトシステム	シフトシステムが正常に作動することを確認します。	61
アイドリング回転数	アイドリング回転数を確認します。	62

要　点：

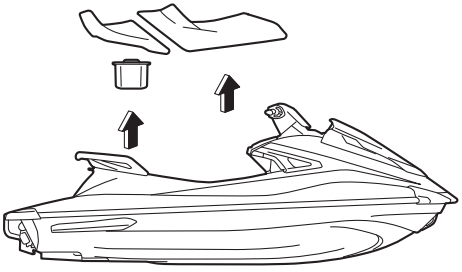
使用前の点検は、安全と信頼性を確保するためにマリンジェットを使用する毎に必ず実施してください。

JJU32282
使用前点検チェックポイント
JJU42383
進水前の点検
使用前点検チェックリストで進水前の点検に分類されている項目は、陸上で点検を行ないます。
進水前の点検を行なうときは：
(1) リヤシートとフロントシート、着脱式防水物入れを取り外します。（シートの脱着方法については 41 ページ、着脱式防水物入れについては 46 ページを参照ください。）
(2) 各項目を点検し、不具合がないことを確認します。
(3) 進水前の点検が終了したら、着脱式防水物入れとフロントシート、リヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU32334
エンジンルームの点検
JWJ00462
⚠警 告

エンジンルームの換気を怠ると火災または爆発を生じる恐れがあります。エンジンルームに燃料漏れがあるときはエンジンを始動しないでください。

エンジンルームの換気を行ないます。燃料気化ガスが無くなるまで、数分間エンジンルームを開けたまま放置します。
エンジンルーム内に損傷がないことを確認します。



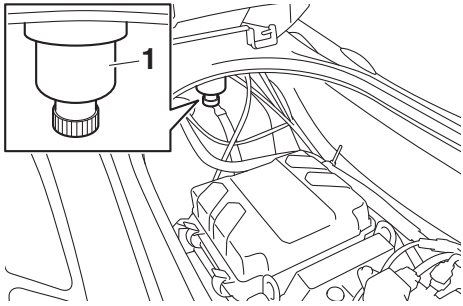
JJU34215
燃料系統の点検
JWJ00382
⚠警 告

- **燃料漏れは火災や爆発の原因となりますので、常に点検をしてください。**
- **燃料漏れが見つかった場合は、直ちにヤマハ取扱店で整備を受けてください。**

燃料系統の損傷、漏れ等、不具合がないことを確認します。
点検箇所
- 燃料フィラーキャップ（パッキン）の損傷
- 燃料タンクの損傷、燃料漏れ
- 燃料ホースと接続部の損傷、燃料漏れ
- 燃料ブリーザーホース経路の損傷、燃料漏れ

JJU36875
燃料残量の点検
燃料タンク内の燃料残量を確認します。
必要な場合は燃料を給油します。（燃料の給油については 47 ページを参照ください。）

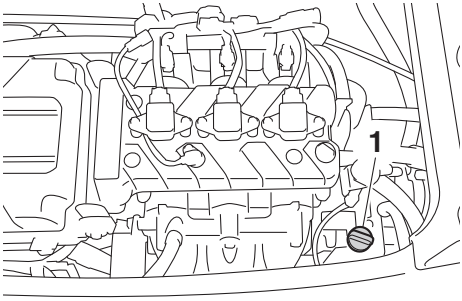
JJU32424
水分離器の点検
水分離器内に水が溜まっていないことを確認します。水が溜まっている場合は排水します。（水分離器の排水については 27 ページを参照ください。）



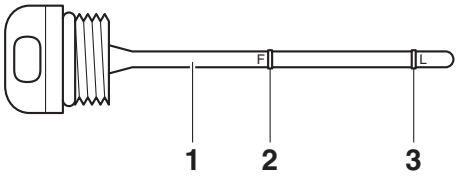
1 水分離器

JJU40182
エンジン外観の点検
エンジン外観に損傷等、不具合がないことを確認します。

JJU41561
エンジンオイル量の点検
エンジンオイル量が、オイルタンクフィラーキャップと一体になったオイルレベルゲージの上限マークと下限マークの範囲内にあることを確認します。（エンジンオイル量の点検については 49 ページをご確認ください。）



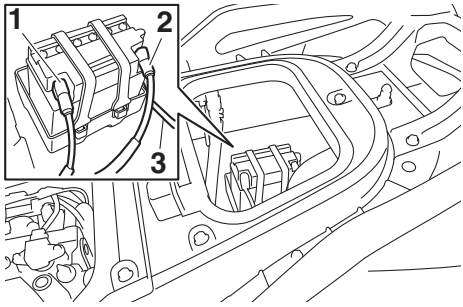
1 オイルタンクフィラーキャップ／オイルレベルゲージ



1 オイルレベルゲージ
2 上限マーク
3 下限マーク

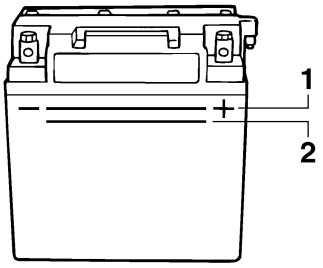
JJU32456
ビルジの点検
エンジンルーム内にビルジが溜まっていないことを確認します。ビルジが溜まっている場合は排水します。（ビルジの排水については 51 ページを参照ください。）

JJU32485
バッテリーの点検
バッテリー端子とブリーザーホースに損傷がないこと、また正しく接続されていることを確認します。**警告！ ブリーザーホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。**[JWJ00452]



1（−）端子：黒色ケーブル
2（+）端子：赤色ケーブル
3 ブリーザーホース

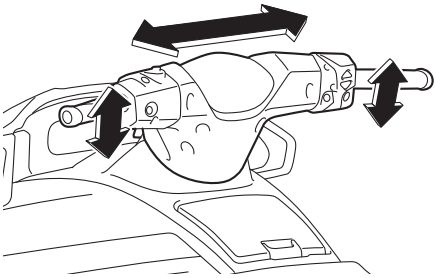
バッテリーの液量が上限マークと下限マークの間にあることを確認します。**警告！ エンジンの始動に必要な容量がない、あるいは容量不足の兆候があるときは絶対にマリンジェットを使用しないでください。バッテリー容量がなくなると途中で立ち往生する恐れがあります。**[JWJ01241]



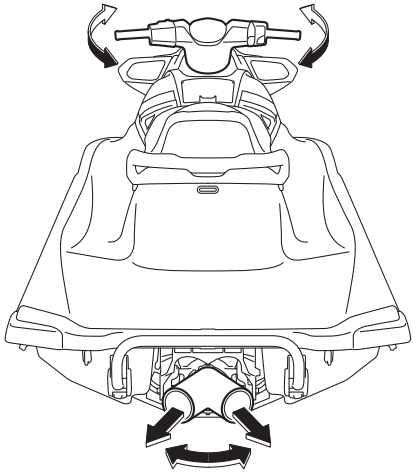
1 上限マーク
2 下限マーク

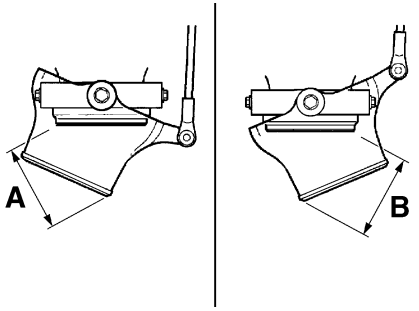
バッテリーが確実に固定されていることを確認します。

JJU32614
ステアリングシステムの作動点検
ハンドルバーを繰り返し操作し、全域にわたって滑らかに動くこと、著しいガタつきがないことを確認します。



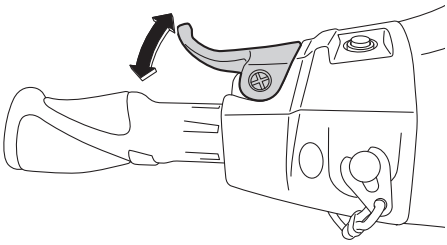
ハンドルバーを左右いっぱいに繰り返し操作したとき、ハンドルバーの動きに応じてジェットノズルの向きが変わること、ジェットノズルの切れ角に左右の差がないことを確認します。



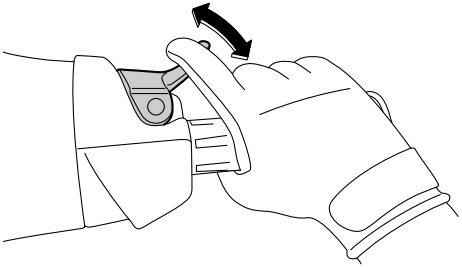


ジェットノズル切れ角（A と B の距離）の差：
5 mm 以内

JJU43213
電動後進レバー（RiDE レバー）の作動点検
RiDEレバーを繰り返し操作し、全域にわたって滑らかに動くこと、放したときに自動的に全閉位置に戻ることを確認します。

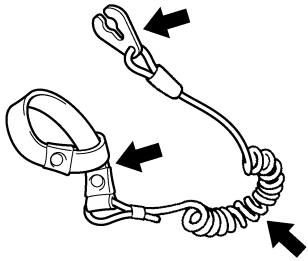


JJU42181
スロットルレバーの作動点検
スロットルレバーを繰り返し操作し、全域にわたって滑らかに動くこと、放したときに自動的に全閉位置に戻ることを確認します。



JJU40113
リモートコントロールトランスミッターの点検
リモートコントロールトランスミッターが正常に作動することを確認します。（ヤマハセキュリティシステムの設定については 24 ページ、L- モードの作動については 32 ページを参照ください。）

JJU32664
緊急エンジン停止コード（ランヤード）の点検
緊急エンジン停止コード（ランヤード）に損傷がないことを確認します。緊急エンジン停止コード（ランヤード）の損傷があった場合は交換します。**警告！ 緊急エンジン停止コード（ランヤード）は決して補修したり繋ぎ合せて使用しないでください。操船者が落水したときにロックプレートが外れず、エンジンが停止しない状態でマリンジェットが航走を続け、重大な事故につながる恐れがあります。**[JWJ01221]



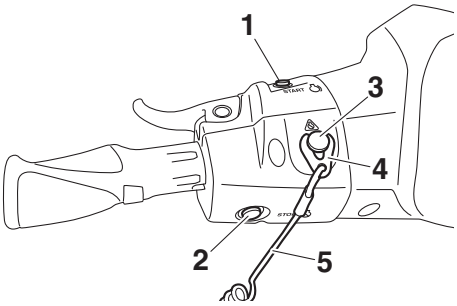
JJU32676
スイッチ類の作動点検
JCJ01311

注 意

陸上ではエンジン回転数を 4000 回転以上に上げないでください。またエンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で、15 秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

エンジン始動スイッチ、エンジン停止スイッチ、緊急エンジン停止スイッチを操作し、正常に作動することを確認します。（各スイッ

チの操作については25ページから25ページを参照ください。）



1 エンジン始動スイッチ
2 エンジン停止スイッチ
3 緊急エンジン停止スイッチ
4 ロックプレート
5 緊急エンジン停止コード（ランヤード）

スイッチ類の作動を確認するときは：

(1) ヤマハセキュリティシステムの設定でロックが設定されているときは、ロックを解除してください。（ヤマハセキュリティシステムの設定については 24 ページを参照ください。）
(2) エンジン始動スイッチを押して、エンジンが始動することを確認します。
(3) エンジンが始動したらすぐにエンジン停止スイッチを押して、エンジンが停止することを確認します。
(4) 再度エンジンを始動し、緊急エンジン停止コード（ランヤード）を引っ張って、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートが外れるとただちにエンジンが停止することを確認します。

JJU40102
物入れの点検
各物入れに損傷がないこと、水が溜まっていないことを確認します。（各物入れについては 44 ページを参照ください。）

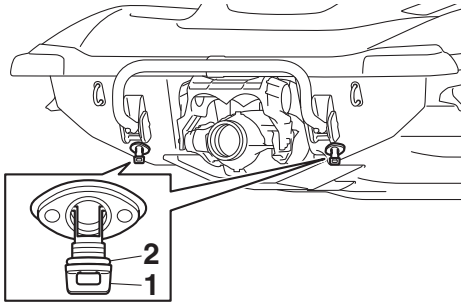
JJU40122
法定備品の点検
使用可能条件を満たしている法定備品が、搭載されていることを確認します。（法定備品については、14 ページを参照ください。）

JJU32353
艇体外観の点検
艇体に損傷等、不具合がないことを確認します。

JJU32657
ジェットインテークの点検
ジェットインテークに損傷がないこと、異物の付着や詰まりがないことを確認します。異物が詰まっている場合は清掃します。（ジェットインテークについては88ページを参照ください。）

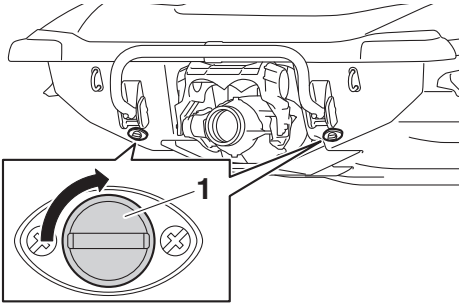
JJU43221
ジェットノズル周辺の点検
ジェットノズルとリバースゲートに損傷等、不具合がないことを確認します。

JJU44250
ドレンプラグの点検
ドレンプラグを緩めて取り外し、ドレンプラグと O リングに損傷や異物の付着がないことを確認します。***注意：*ドレンプラグを取り付ける前に、O リングとネジ部分のゴミや砂などの異物を取り除いてください。異物を取り除いていないと、ドレンプラグが損傷し、エンジンルーム内に浸水する恐れがあります。マリンジェットを進水する前には、必ず O リングの点検とドレンプラグが確実に取り付けられていることを確認してください。確実に取り付けられていないと、エンジンルーム内に浸水しマリンジェットが水没する恐れがあります。**[JCJ00363]



1 ドレンプラグ
2 O リング

ドレンプラグを止まるまで締め込み確実に取り付けます。

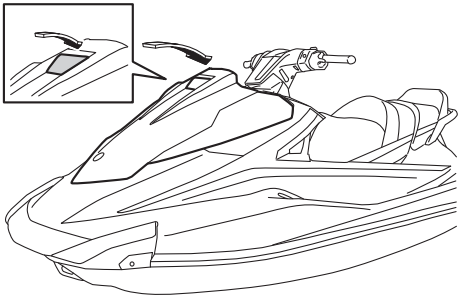


1 ドレンプラグ

JJU43810

フードの点検

フードラッチを押し下げ、フードが確実に固定されていることを確認します。



JJU40146

進水後の点検

使用前点検チェックリストで進水後の点検に分類されている項目は、マリンジェットを水に浮かべてエンジンを始動した後に点検を行ないます。

<u>進水後の点検を行なうときは：</u>

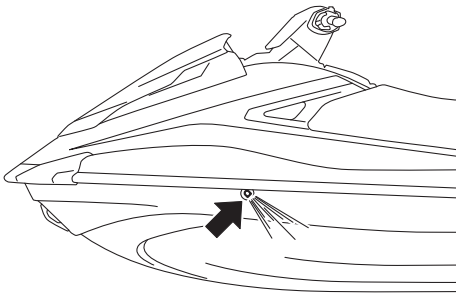
(1) マリンジェットを進水します。（マリンジェットの進水については 64 ページを参照ください。）

(2) 各項目を点検し、不具合がないことを確認します。

JJU40553

冷却水点検孔の点検

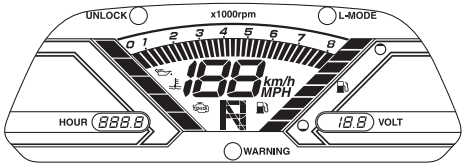
冷却水点検孔から冷却水が排水されていることを確認します。（冷却水点検孔については 27 ページを参照ください。）



JJU32715

マルチファンクションメーターの作動点検

マルチファンクションメーターが正常に作動することを確認します。（メーターの正しい作動については 36 ページを参照ください。）

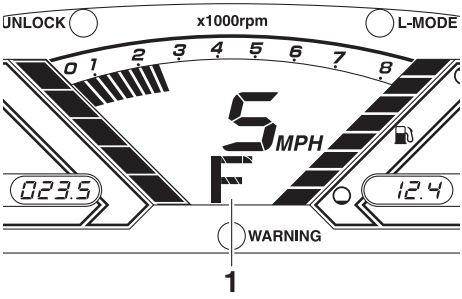


JJU43392

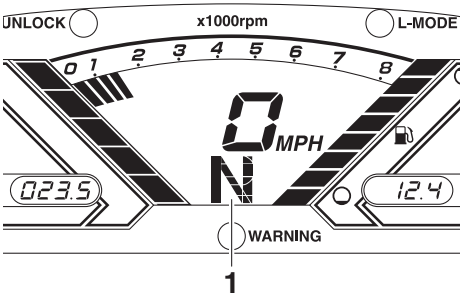
シフトシステムの作動点検

スロットルレバーと RiDE レバーを操作し、シフトインジケーターの表示とマリンジェットの動きが連動していることを確認します。（シフトシステムの操作については 29 ページを参照ください。）**警告！ 遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な**

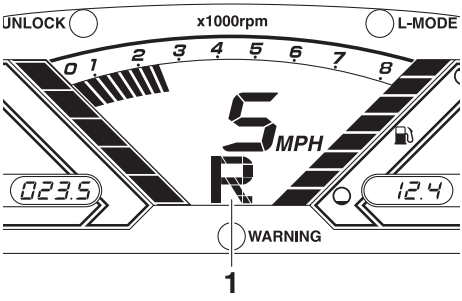
速度や距離を保ち、衝突防止に努めてください。[JWJ01860]



1 F（前進）



1 N（ニュートラル位置）



1 R（後進）

JJU40172

アイドリング回転数の点検

暖気運転後、マルチファンクションメーターのタコメーターを使用し、アイドリング回転数が規定値より著しく外れていないことを確認します。

規定アイドリング回転数：
1500 ±100 r/min

JJU32903

操船するときは

JWJ00511

⚠警 告

マリンジェットに乗る前には、基本操作を十分に理解してください。操作方法が良く判からない場合はヤマハ取扱店にご相談ください。理解できないまま操船すると事故を起す恐れがあります。

JJU35644

使用の前に

マリンジェットの操船には練習を通して得られる技術が必要です。高度な技量を要する操船に挑戦する前に、基本的な技術を時間をかけて習得するようにしてください。
マリンジェットを楽しむためには、まず操作によく慣れ、安全に操船するための技術を覚えることが重要です。乗船前には必ず本書と操船の手引きをお読みいただき、操船方法を理解してください。特に 6 ページから始まる「安全情報」をよくお読みください。また、全てのラベルを必ずお読みください。
このマリンジェットは操船者と同乗者2名の合計 3 名まで乗船できます。最大積載重量や 3 名の定員（プレーヤーを牽引しているときは 2 名）を越える乗船は絶対しないでください。

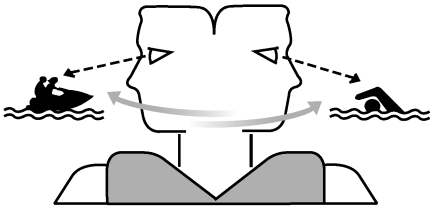
最大積載重量：
240 kg（荷物および乗員の合計重量）

JJU35663

操船の前に

乗船前には必ず 54 ページの「使用前点検チェックリスト」に沿って点検を行なってください。
マリンジェットに乗船する前には関連規則の全てをご確認ください。

控えめな安全速度で、周囲の遊泳者、障害物、船舶等から十分な距離を保って航走してください。



操船の練習は視界が良好で船舶等の交通量が少ない広い場所で行なってください。
陸岸から離れて操船するときは、単独で行動しないでください。遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。
ハンドルバーをしっかりと握り、両足はフットウェルフロアに乗せておきます。1 人での操船に十分に慣れるまでは同乗者を乗せないでください。

JJU40212

乗船姿勢

操船者の乗船姿勢

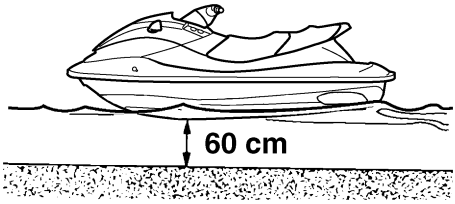
両手でハンドルバーをしっかりと握り、両足をフットウェルフロアに乗せます。

同乗者の乗船姿勢

同乗者は両足をフットウェルフロアに乗せ、前の人またはグリップにしっかりと掴まり

ます。同乗者を操船者の前に絶対に乗せないでください。（ウェイクボード／水上スキーを行うときの乗船姿勢については 13 ページを参照ください。）

さい。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。
[JCJ00473]

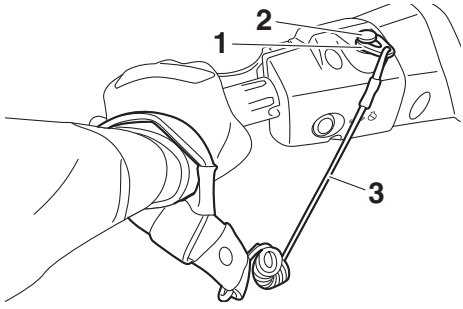


JJU32803
マリンジェットの進水
マリンジェットを進水するときは、周囲に障害物がないことを確認します。
トレーラーから進水するときは、波によってマリンジェットがトレーラーに押し込まれないようにしてください。

JJU36346
出航・乗船時のエンジンの始動
JWJ01531
⚠警 告

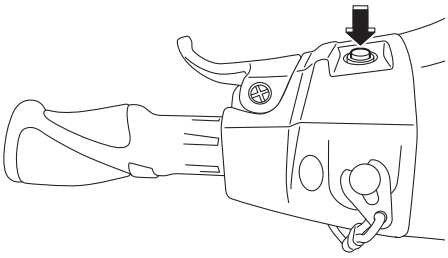
マリンジェットの後方に人がいるときはスロットルを開けないでください。エンジンを停止させるか、アイドリング回転数にしてください。スロットルを開けるとジェットノズルから噴出される水や異物で大きな怪我をする恐れがあります。

エンジンを始動するときは：
(1) ヤマハセキュリティシステムの設定でロックが設定されているときは、ロックを解除してください。（ヤマハセキュリティシステムの設定については 24 ページを参照ください。）
(2) 海藻やゴミが無く、船底から水底までの距離が 60 cm 以上のところまで、マリンジェットを移動します。***注意：*船底から水底までの距離が 60 cm 未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでくだ**
(3) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。（緊急エンジン停止スイッチの操作については 25 ページを参照ください。）**警告！ 緊急エンジン停止コード（ランヤード）が正しく取り付けられていることを確認してください。正しく装着していないと、操船者が落水したときにロックプレートが外れず、エンジンが停止しない状態でマリンジェットが航走を続け、重大な事故につながる恐れがあります。**[JWJ00582]



1 ロックプレート
2 緊急エンジン停止スイッチ
3 緊急エンジン停止コード（ランヤード）

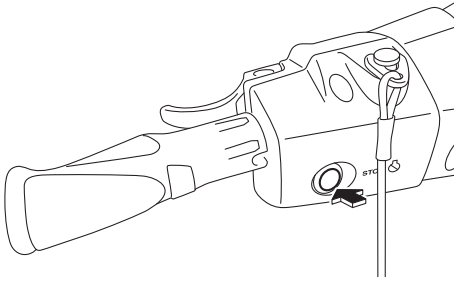
(4) スロットルレバーを放した状態で、エンジン始動スイッチ（緑色ボタン）を押して、エンジンを始動します。（エンジン始動スイッチの操作については 25 ページを参照ください。）



JJU32863

エンジンの停止

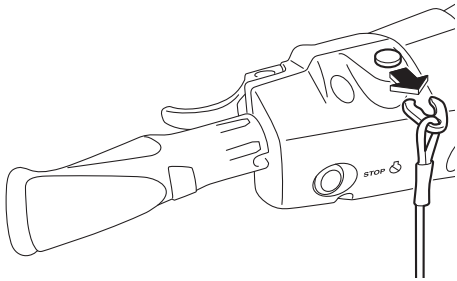
スロットルレバーを放し、エンジン停止スイッチ（赤色ボタン）を押してエンジンを停止します。**警告！ 進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。エンジンを停止すると障害物を回避できずに衝突し、重大な事故の原因になります。**[JWJ00602]



JJU32873

マリンジェットから離れるとき

マリンジェットから離れるときは、不意のエンジン始動や子供等が操作することを防止するために、ロックプレートを緊急エンジン停止スイッチから取り外してください。

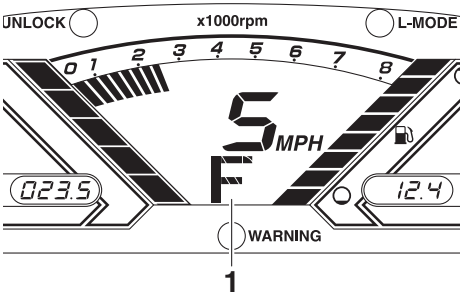


JJU43410

マリンジェットの航走

スロットルレバーを握ると、マリンジェットは前進し、マルチファンクションディスプレイのシフトインジケーターに “F” が表示されます。シフトインジケーターが “F” を表示しているときは、スロットルレバーが全閉状態でもトローリング速度で前進します。（シフ

トシステムの操作については 29 ページを参照ください。）



1 F（前進）

JJU43422

マリンジェットの旋回

JWJ01782

⚠警 告

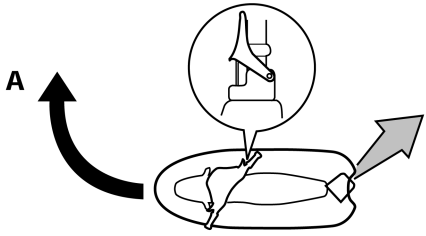
- **障害物を避けるために進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。**
- **高速航走時は徐々に旋回を行なうか、または旋回前に速度を落としてください。高速で鋭角に旋回しようとすると、マリンジェットがスライド（横スベリ）したり、スピンしたりする要因になります。操船者と同乗者がマリンジェットから放り出され、負傷する可能性が高くなります。**
- **早めに行動を起こし衝突防止に努めてください。RiDE は危険回避のためのブレーキ装置ではありません。**

旋回はスロットルとハンドル操作を併用して行ないます。

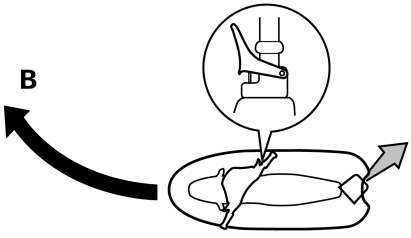
ジェットインテークから取り入れられた水がジェットポンプのインペラで加圧されます。加圧された水がジェットノズルから放出されることにより推進力を生み出し、マリンジェットを動かし、旋回させます。エンジン回転数が高いほど、より大きな推進力が生じます。

旋回半径は、ステアリングハンドルの切れ角度だけでなく、ジェット推進力の強弱によっても変化します。

A. スロットルが生み出す推進力が大きいほど、より鋭角的に旋回します。

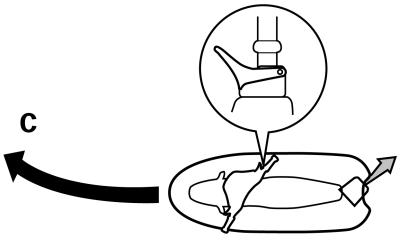


B. スロットルが生み出す推進力が小さいほど、より緩やかに旋回します。

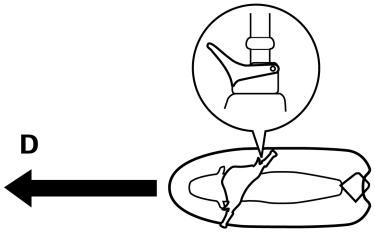


C. スロットルレバーから完全に手を放すと推進力は最小になります。トローリング速度以上で航走しているとき、スロットルを戻してしまうと旋回能力は急激に低下します。スロットルレバーから手

を放した直後はまだある程度の旋回能力が残っていますが、一旦エンジン回転が落ちてしまうと、再度スロットルを開けるか、艇がトローリング速度に到達するまでマリンジェットはステアリングハンドル操作に反応しません。
トローリング速度で航走中は、アイドリング回転の推進力のみでもステアリングハンドルを操作するだけで緩やかに旋回できます。

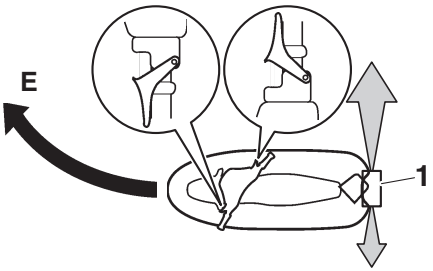


D. エンジンが停止すると推進力がなくなります。この場合、ステアリングハンドルを進みたい方向へ向けてもマリンジェットはそのまま直進します。



進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。

E. プレーニング速度で航走中、RiDE レバーを握り、ステアリングハンドルを操作すると、マリンジェットは減速しながら緩やかに旋回します。



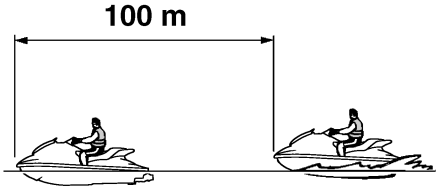
1 リバースゲート

このモデルはオフスロットルステアリングシステム（OTS）を備えたヤマハエンジンマネージメントシステム（YEMS）を採用しています。OTS はプレーニング速度でスロットルレバーを放してハンドルバーを操作したとき（上記項目 C を参照ください。）に作動します。
OTS はマリンジェットの減速中にも若干の推進力を与え続けることで旋回性の補助をしますが、旋回中にスロットルを開ければさらに急旋回をすることができます。OTS はエンジン停止状態またはプレーニング速度未満では動作しません。一旦エンジン回転が落ちてしまうと、再度スロットルを開けるか、艇がトローリング速度に到達するまでマリンジェットはステアリングハンドル操作に反応しません。

JJU43251
マリンジェットの停船

マリンジェットにはブレーキ装置が有りません。水の抵抗や後進時の噴流によって減速します。マリンジェットはスロットルレバーを放すと減速しますが、完全に停船するまである程度の距離を航走します。障害物まで十分な停船距離（時間）がなく衝突する恐れのあるときは、スロットルレバーとハンドル操作で旋回して障害物を回避してください。
フルスピードからスロットルレバーを全閉にしたり、エンジンを停止させたりしても、

マリンジェットは水の抵抗で停船するまでに約 100 m ほど進みます。この停船距離は総重量、水面の状態、風向きによって異なりますので目安としてください。



フルスピードから RiDE レバーを握って減速を行なうと、RiDE レバーを握らない場合と比較して、停船距離は約 30%短くなります。この停船距離は総重量、水面の状態、風向きによって異なりますので目安としてください。

JWJ01791

⚠警 告

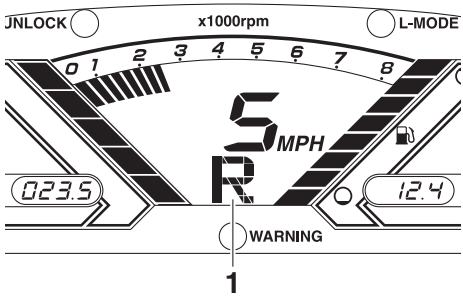
- **停船するときには十分な停止距離を確保してください。**
- **早めに行動を起し衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。**
- **控えめな安全速度で航走し、周囲の遊泳者、障害物、船舶等から十分な距離を保ち、余裕をもって停船できるようにしてください。**
- **減速しているとき、進路上に船舶や障害物等が有る場合は、エンジン出力を使って回避する必要がありますので、エンジンは停止しないでください。**
- **航走中に RiDE レバーを握り、減速または停船するときは、後方からの追突を避けるため、後方を確認してください。**

JJU43442

マリンジェットの後進またはニュートラル

後進の操作

RiDE レバーを握ると、マリンジェットは後進し、マルチファンクションディスプレイのシフトインジケーターに “R” が表示されます。（シフトシステムの操作については 29 ページを参照ください。）



1 R（後進）

「後進」へシフトする前には必ず後方に障害物や人がいないことを確認してください。

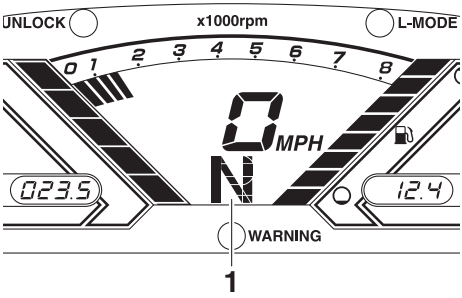
要　点：

このモデルには後進時のエンジン回転数を制限する機能がついています。

ニュートラルの操作

RiDEレバーを軽く握り放すと、マリンジェットはその場に停止し、マルチファンクションディスプレイのシフトインジケーターに “N”

が表示されます。（シフトシステムの操作については 29 ページを参照ください。）



1 N（ニュートラル位置）

JJU36206

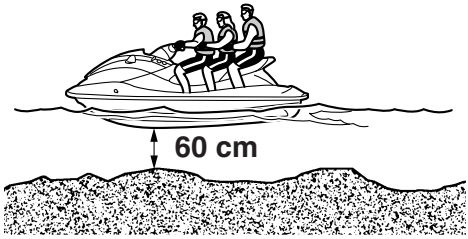
マリンジェットへの乗船

JWJ00622

⚠警 告

操船者と同乗者は、乗船前に海岸の近くで水中からの乗船の練習を十分に行なってください。何回試みてもマリンジェットに再乗船できない場合、疲労や怪我をしたり、溺れたりする危険性が増大します。

海藻やゴミが無く、船底から水底までの距離が 60 cm 以上のところで、マリンジェットに乗船します。***注意：*****船底から水底までの距離が 60 cm 未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。**[JCJ00473]



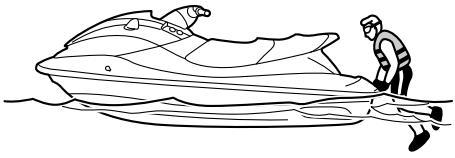
要　点：

このモデルは、リボーディングステップを降ろして乗船の補助に使用することができます。（リボーディングステップの操作については 42 ページを参照ください。）

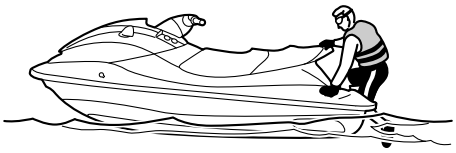
JJU36354

1 人で乗り込む場合

(1) マリンジェットの後方から、両手をボーディングプラットフォームに掛け、身体を引き上げます。そして片手でハンドグリップを掴みます。



(2) 身体を引き上げ、ボーディングプラットフォーム上に膝をつき、シートに移動して跨ります。



(3) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
(4) 両手でハンドルバーを握り、両足をフットウェルフロアに乗せます。

(5) 周囲を確認し、エンジンを始動してゆっくりと出航します。

JJU43260
同乗者と乗り込む場合

JWJ01800
⚠警 告

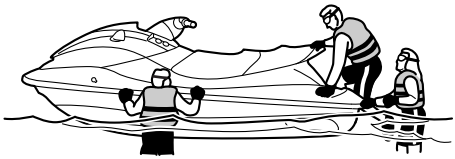
● ジェットノズルからの強い噴流は危険です。下半身の身体開口部に噴流があたると怪我をする恐れがあります。同乗者がシートに座り、両足をフットウェルフロアに乗せて前の人またはグリップにしっかりと掴まるまでスロットルを開けないでください。

● 乗船するときはエンジンを停止してください。エンジンを始動するとリバースゲートが下降し、挟まれる恐れがあります。

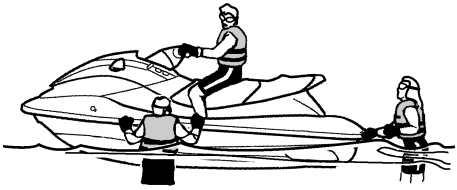
操船者と同乗者の合計体重が増すほど、マリンジェットのバランスを保つことが難しくなります。荷物などの重さを含めて総重量が 240 kg を越えないようにしてください。

同乗者と乗り込むときは：

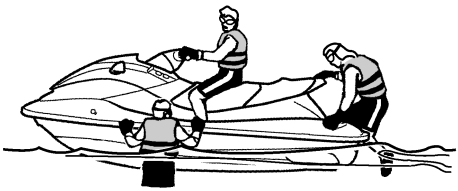
(1) 操船者は前述の“1人で乗り込む場合”と同じ方法で乗船します。



(2) 両手でハンドルバーを握り、両足をフットウェルフロアに乗せます。
(3) 1 人目の同乗者はマリンジェット後方に移動します。



(4) 1人目の同乗者も操船者と同じ方法で乗船し、両足をフットウェルフロアに乗せ操船者にしっかり掴まります。



(5) 2人目の同乗者が乗船するときは、操船者と1人目の同乗者でマリンジェットのバランスを取ります。2人目の同乗者も同じ方法で乗船します。

(6) 操船者は、同乗者が両足をフットウェルフロアに乗せ、前の人またはグリップにしっかりと掴まっていることを確認します。

(7) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。

(8) 周囲を確認し、エンジンを始動してゆっくりと出航します。

JJU33083

出航

JWJ00712

⚠警 告

次の事項を守り、衝突防止に努めてください。

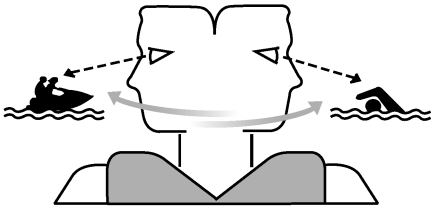
- **遊泳者、障害物、周囲の船舶等の見張りを怠らないでください。視界が制限されたり、妨げられたりする状況では注意を怠らないでください。**
- **気を抜かないで航走してください。遊泳者、障害物、周囲の船舶等から回避できる安全な速度や距離を保ってください。**
- **他のマリンジェットや船舶の背後を追走しないでください。周囲のものに水飛沫等が掛かるまで接近しないでください。急旋回等、周囲の操船者が予測困難な操船は行なわないでください。浅瀬または暗礁のある水域は避けてください。**
- **早めに行動を起こし衝突防止に努めてください。マリンジェットも他の船舶同様にブレーキ装置は有りません。障害物を避けるために進路を変更するときはスロットルを戻さないでください。進路を変更するためにはスロットル操作が必要です。**

JCJ01341

注 意

船底から水底までの距離が 60 cm 未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引

されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。



JJU43271

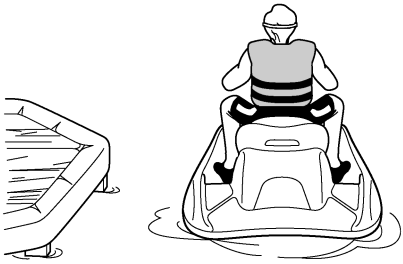
トレーラーからの出航

(1) マリンジェットを進水させます。
(2) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
(3) 周囲を確認し、エンジンを始動します。
(4) RiDE レバーを握り、後進でゆっくりと出航します。（RiDE レバーの操作方法については 29 ページを参照ください。）

JJU33114

桟橋からの出航

(1) マリンジェットの横から乗船します。
(2) 緊急エンジン停止コード（ランヤード）を手首に取り付けた後、緊急エンジン停止スイッチにロックプレートを取り付けます。
(3) 桟橋からマリンジェットを押し出し、両手でハンドルバーを握り両足をフットウェルフロアに乗せます。



(4) 周囲を確認し、エンジンを始動してゆっくりと出航します。

JJU44210

転覆したときには

JWJ00672

⚠警 告

誤った引き起しをすると負傷する恐れがあります。

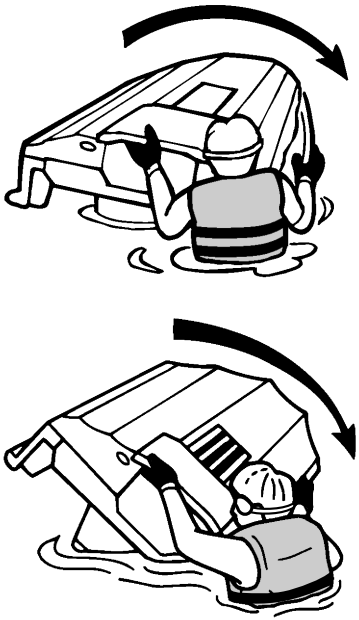
- **緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。**
- **ジェットインテークには手を掛けないでください。**

マリンジェットが転覆した場合は、すみやかに引き起こします。

マリンジェットを引き起こすときは：

(1) 緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外します。
(2) マリンジェットの後方まで泳ぎ、片手でライドプレートを掴み、もう一方の手ま

たは足をガンネルに掛けて押し下げながら回転させます。



(3) エンジンを始動してプレーニング速度で航走を開始し、エンジンルーム内のビルジを排水します。（ビルジの排水については 51 ページを参照ください。エンジンが始動しない場合は、90 ページの「マリンジェットの曳航」または 90 ページの「水没時の処置」を参照ください。）
***注意：*エンジン再始動後 1 分間は、エンジン回転数を最高回転数まで上げないでください。溜まっているビルジが飛び散ってエンジン内に浸入し、故障の原因となります。**[JCJ00554]

JJU43282

マリンジェットの着岸

海岸へ着岸するときは：

(1) 遊泳者、障害物、船舶等が海岸付近にいないことを確認します。
(2) 海岸から約100 mのところでスロットルレバーを放し、減速をはじめます。
(3) ゆっくりと岸に近づき、スロットルレバーと RiDE レバーを使用し、着岸します。***注意：*船底から水底までの距離が 60 cm 未満の場所では絶対にエンジンを運転しないでください。小石や砂がジェットインテークに吸引されインペラを破損したり、エンジンのオーバーヒートの原因になります。**[JCJ00473]
(4) エンジンを停止し、マリンジェットから降りて岸に引き上げます。

桟橋へ接岸するときは：

(1) 遊泳者、障害物、船舶等が桟橋付近にいないことを確認します。
(2) 桟橋から約100 mのところでスロットルレバーを放し、減速をはじめます。
(3) ゆっくりと桟橋に近づき、スロットルレバーと RiDE レバーを使用し、接岸します。
(4) エンジンを停止し、マリンジェットから降ります。

JJU37194

海藻が密生している場所での航走

海藻が密生している場所での使用は避けてください。密生箇所の通過が避けられない場合は、スロットルレバーを握る・緩める操作を繰り返し行ない、速度に変化をつけて航走してください。速度が一定のときやトローリング速度での航走の方が海藻は詰まりやすくなります。海藻がジェットインテークに詰まったと思われる場合は、ジェットインテークの清掃を行なってください。（ジェットインテークについては 88 ページを参照ください。）

JJU40242

陸揚げしたときには

JCJ01311

注 意

陸上ではエンジン回転数を 4000 回転以上に上げないでください。またエンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で、15 秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

マリンジェットの航走を終了し陸揚げしたときは、すみやかに冷却経路に残った水を排水します。

冷却経路から排水するときは：

(1) 周囲を確認し、エンジンを始動します。
(2) 10 ～ 15 秒間内にスロットルレバーを握る・放す操作を数回素早く繰り返し行ない、冷却経路に残っている水を排水します。
(3) エンジンを停止します。

JJU37146

使用後のお手入れ

JWJ00331

⚠警 告

マリンジェットを保管する場合は、水平に置いてください。ガソリンが漏れてエンジンやエンジンルーム内に入って火災を起こす恐れがあります。

使用後は毎回確実にマリンジェットを陸揚げして、各部を洗浄し保管します。マリンジェットを長期間にわたって水上に放置しておくと、ジェットポンプや艇体を劣化させる原因となります。また、電蝕、海藻や貝類の付着、塩水による腐食は各部品の寿命を縮める原因となります。

JJU43652

エンジン冷却経路の水洗

JCJ01311

注 意

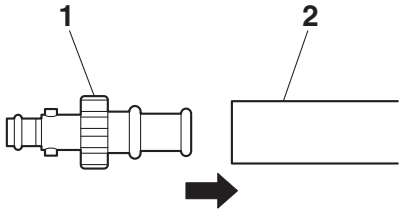
陸上ではエンジン回転数を 4000 回転以上に上げないでください。またエンジン冷却経路に水道水が供給されない状態で、15 秒以上のエンジン運転は行わないでください。エンジンがオーバーヒートする恐れがあります。

塩、砂、ゴミなどによる目詰まりを防止するために、エンジン冷却経路を水洗します。

(1) マリンジェットを水平に置きます。

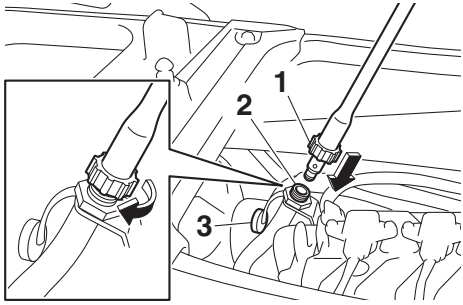
(2) リヤシートとフロントシートを取り外し、着脱式防水物入れを取り外します。(シートの脱着方法については 41 ページ、着脱式防水物入れについては46ページを参照ください。)

(3) 水道ホースアダプターを水道ホースに取り付けます。



1 水道ホースアダプター
2 水道ホース

(4) 水洗ホースコネクターキャップを緩めて取り外します。水道ホースアダプターを、水洗ホースコネクターに押し込み回転させて確実に固定します。

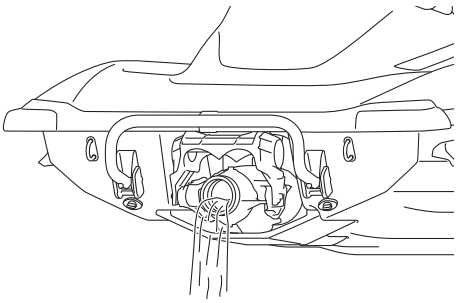


1 水道ホースアダプター
2 水洗ホースコネクター
3 水洗ホースコネクターキャップ

(5) 水道ホースを水道の蛇口に接続します。

(6) 周囲を確認し、エンジンを始動します。始動後はただちに、ジェットノズルから水が連続的に排水されるよう水道水バ

ルブを全開にして最大水量を供給します。



(7) アイドリング回転数でエンジンの運転状態を見ながら約 3 分間運転します。もし途中でエンジンが止まったときは、ただちに水道水の供給を止めて再度手順 6 から行ないます。***注意：*エンジンが停止しているときは絶対に冷却経路に水道水を供給しないでください。水がマフラーからエンジン内に逆流し、重大なエンジンの損傷をまねく恐れがあります。**

[JCJ00123]

(8) 水道水の供給を停止します。
(9) 10 ～ 15 秒間内にスロットルレバーを握る・放す操作を数回素早く繰り返し行ない、冷却経路に残っている水を排水します。
(10) エンジンを停止します。
(11) 水道ホースアダプターを取り外し、水洗ホースコネクターキャップを止まるまで締め込み確実に取り付けます。
(12) 着脱式防水物入れとフロントシート、リヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU43850

艇体各部の水洗

(1) リヤシートとフロントシートを取り外します。（シートの脱着方法については 41 ページを参照ください。）
(2) マリンジェットを 1 週間以上保管する場合は腐食を防止するため、エンジン内部を防錆します。（エンジン内部の防錆については 79 ページを参照ください。）
(3) エンジンとエンジンルームを少量の水で水洗します。***注意：*高圧の水でエンジンやエンジンルームを洗浄しないでください。重大な損傷の原因となります。**

[JCJ00572]

(4) エンジンルームに溜まった水を排水します。（ビルジの排水については、51 ページを参照ください。）
(5) エンジンとエンジンルームを乾いた布で拭きます。
(6) 艇体各部、ジェットポンプを水洗します。
(7) 艇体各部、ジェットポンプを乾いた布で拭きます。
(8) シートなどのビニール、その他のゴム部分は全て中性洗剤を使って拭きます。
(9) 腐食を防止するため、艇体とエンジンの各金属部に防錆剤を噴霧します。
(10) シートを取り付ける前に、エンジンルームを外気にあて完全に乾燥させます。
(11) フロントシートとリヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU33688

バッテリーのお手入れ

マリンジェットを1ヶ月以上使用しないときは、バッテリーをマリンジェットから取り外し各部を確認後、乾いた涼しくて暗い場所に保管します。

JWJ00792

⚠警 告

バッテリー取り扱い上のご注意

- **バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので取り扱いを誤ると爆発し怪我をすることがあります。**
- **バッテリーの液量が下限マーク以下の状態で使用または充電すると、バッテリーの劣化を早めたり、爆発の原因となる恐れがあります。**
- **火気厳禁 = ショートやスパークさせたり、タバコ等の火気を近づけないでください。**

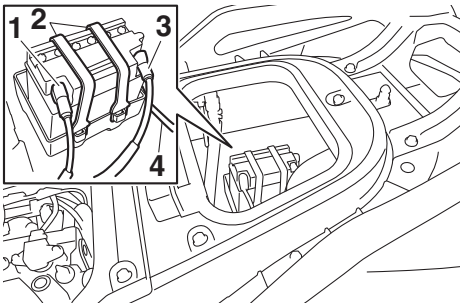
- **補充電は風通しの良いところで行なってください。**
- **落下等の強い衝撃を加えないでください。**
- **バッテリーを横にしないようにしてください。バッテリー液がこぼれる可能性があります。**
- **バッテリー液は希硫酸で、皮膚、目、衣服に付着すると侵されますので取り扱いには十分注意してください。**
- **子供の手の届くところに置かないでください。**

応急手当

- **万一、バッテリー液が皮膚、衣服に付着したときはただちに大量の水で洗い流してください。**
- **目に入ったときはただちに大量の水で十分に洗い、医師の治療を受けてください。**

バッテリーを取り外すときは：

(1) まず最初にバッテリーの（−）端子から黒色ケーブルを外します。
(2) 次に（+）端子から赤色ケーブルを外します。
(3) ブリーザーホースを取り外します。
(4) バッテリー固定バンドを取り外し、バッテリーをマリンジェットから取り外します。



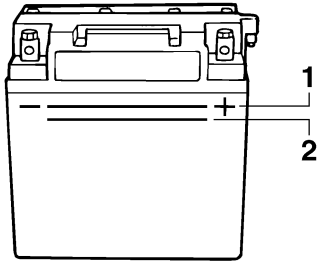
1（−）端子：黒色ケーブル
2 バッテリー固定バンド
3（+）端子：赤色ケーブル
4 ブリーザーホース

バッテリー各部の確認

- バッテリー本体に損傷がないことを確認します。
- バッテリー端子に腐食、損傷がないことを確認します。
- ブリーザーホースに損傷や詰まりがないことを確認します。

バッテリー液量の確認

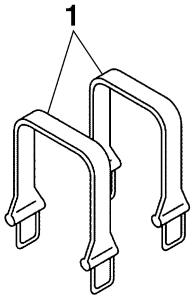
バッテリー液の液面が上限マークと下限マークの間にあることを確認します。
バッテリー液が少ない場合は、蒸留水を規定範囲内まで補充します。***注意：*補充には必ず蒸留水を使用してください。蒸留水以外を使用すると、バッテリーの寿命を縮める原因となります。**[JCJ00242]



1 上限マーク
2 下限マーク

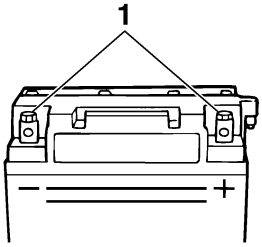
蒸留水を補充した場合は、電圧点検が必要です。
バッテリー電圧の点検や補充電は、ヤマハ取扱店またはバッテリーの取扱店で行なうことをお奨めします。ご自身でこの作業を行なう場合は、充電機器に付属の指示をよく読んで、その指示に従ってください。***注意：*急速充電は行なわないでください。バッテリーの寿命を縮める原因となります。**[JCJ00252]

バッテリー固定バンドの確認
バッテリー固定バンドに損傷がないことを確認します。



1 バッテリー固定バンド

バッテリーを保管するときは：
(1) 水道水でバッテリー外側を清掃します。
(2) 電極端子部の汚れを、ワイヤーブラシ等を使用して磨きます。



1 電極端子

(3) 電極端子に耐水グリスを塗布します。

推奨耐水グリス：
ヤマハグリス A

(4) 乾いた涼しくて暗い場所に保管します。
***注意：*バッテリーを充電しない状態で放置すると、使用できなくなる恐れがあります。バッテリーは定期的に確認を行なってください。**[JCJ00103]

バッテリーを取り付けるときは：
(1) バッテリーを所定の場所に置き、バッテリー固定バンドを取り付けて固定します。
(2) まず最初に赤色ケーブルを（+）端子に取り付けます。***注意：*（+）端子と（−）端子を逆に接続すると、電装部品の故障の原因となります。**[JCJ00262]
(3) 次に黒色ケーブルを（−）端子に取り付けます。
(4) ブリーザーホースをバッテリーに接続します。**警告！ ブリーザーホースが損傷していたり、折れ曲がっていたり、確実に取り付けられていない場合、火災や爆発の恐れがあります。**[JWJ00452]
(5) バッテリーが所定の場所に確実に固定されていることを確認します。

JJU33493

長期保管

JWJ00331

⚠警 告

マリンジェットを保管する場合は、水平に置いてください。ガソリンが漏れてエンジンやエンジンルーム内に入って火災を起こす恐れがあります。

冬場など長期間にわたってマリンジェットを保管する場合は、劣化防止のための整備が必要です。保管の前にヤマハ取扱店による格納整備を受けることをお奨めします。
格納整備の中で簡易的に作業できる次の項目については、ご自身で行なうことができます。

JJU40752

各部の洗浄

(1) エンジン冷却経路の水洗を行ないます。（エンジン冷却経路の水洗については 75 ページを参照ください。）

要 点：

マリンジェットを長期保管する前には、燃料タンクを新しいガソリンで満たし、ガソリン 1 L に対して約 8 mL のヤマハ純正燃料安定剤を加えてから、エンジンを始動してください。

(2) 艇体各部の水洗を行ないます。（艇体各部の水洗については 76 ページを参照ください。）
艇体各部の水洗後は、艇体外部にヤマハボートワックスを塗ってください。

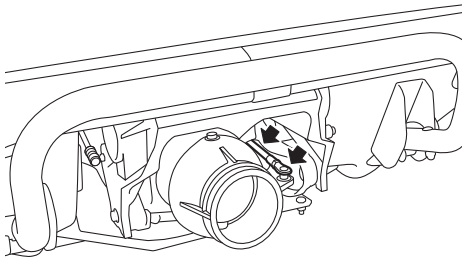
JJU43680

各部の潤滑

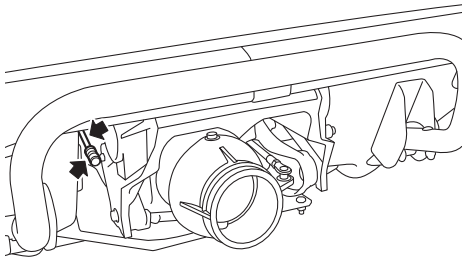
ケーブル類の潤滑と同時に汚れや水分を洗い流すため、インナーケーブルとアウターケーブルの間に潤滑剤（耐水性のグリススプレー）を噴霧します。
可動部分の摺動や回転を滑らかにするために耐水グリスを塗布します。

推奨耐水グリス：
ヤマハグリス A

● ステアリングケーブル（ノズル側）



● シフトロッド（リバースゲート側）



JJU44150

各部の防錆

艇体各部の防錆

防錆潤滑剤（ヤマハマリンガード）を艇体とエンジンの各金属部に噴霧します。

エンジン内部の防錆

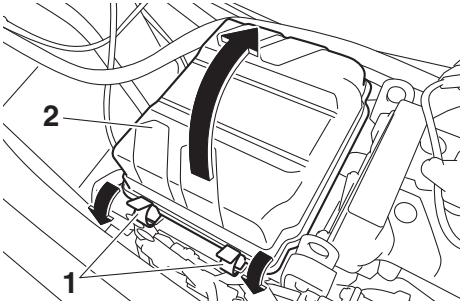
防錆潤滑剤（ヤマハマリンガード）をエンジン内部に噴霧します。

エンジン内部の防錆を行なうときは：

(1) リヤシートとフロントシートを取り外します。（シートの脱着方法については 41 ページを参照ください。）

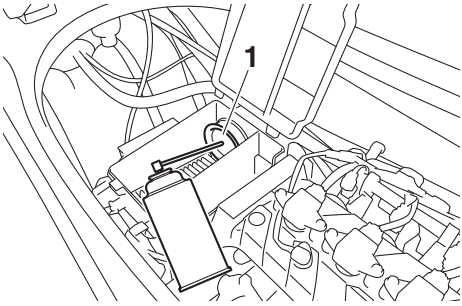
(2) エアフィルターケース左舷側のフックを外し、エアフィルターケースカバーを持ち上げます。***注意：*エアフィルターケースカバーは勢いよく持ち上げないでください。エアフィルターケースカバーには燃料ホースが固定されており、**

燃料ホースを損傷する恐れがあります。 [JCJ02620]



1 フック
2 エアフィルターケースカバー

(3) 吸気口に防錆潤滑剤（ヤマハマリンガード）または同等品を 3 秒間噴霧します。**警告！ エンジンが熱いときは、可燃性の防錆潤滑剤を吹きつけないでください。火災を起す恐れがあります。** [JWJ00262]



1 吸気口

(4) エアフィルターケースカバーを元の位置に戻し、フックを取り付けます。

要　点：

エアフィルターケースカバーがきちんと固定されていることを確認します。

(5) 換気のいい場所で、周囲を確認し、エンジンを始動してアイドリング回転数で 15 秒間運転します。（エンジンの始動については 25 ページを参照ください。）
(6) エンジンを停止します。
(7) フロントシートとリヤシートを元のように確実に取り付けます。

JJU35827

整備と点検

定期的な点検や給脂を行ない、マリンジェットを可能な限り安全で良好な状態に保つため適切な整備を実施することは所有者の責任です。必ず定期点検を実施してください。交換部品が必要なときはヤマハ取扱店にご相談ください。ヤマハ純正部品もしくは同等品以外の取り付けにより生じた故障は、保証の対象とならないことをご承知おきください。

JWJ00312

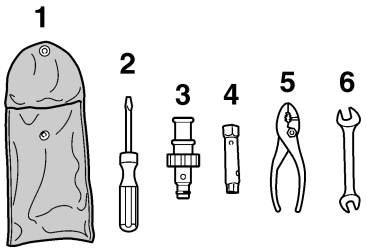
⚠警 告

本書で指示なき作業等を行なうときは、必ずエンジンを止めてください。お客様自身が整備作業についてあまり熟知されていない場合は、作業をヤマハ取扱店に依頼してください。

JJU33803

工具セット

マリンジェットには工具セットが付属しています。マリンジェットを使用するときは、防水バッグに入れて常に携行してください。



1 工具袋
2 スクリュードライバー
3 水道ホースアダプター
4 10–12 mm ボックスレンチ
5 プライヤー
6 10–12 mm 両口スパナ

JJU43540

定期点検表

定期点検表は一般的な点検時期を記載しています。点検表に基づき、お買い上げのヤマハ取扱店で点検を受けてください。点検時期は使用状態によって異なります。詳しくはヤマハ取扱店にご相談ください。

また、整備手帳には保証書とともに定期点検整備の項目、および定期点検記録簿が入っております。マリンジェットの維持管理にご活用ください。

“√” の印はヤマハ取扱店が行う点検整備項目です。

項目	作業内容	初回	次回以降			参照ページ
		10 時間	50 時間毎または12ヶ月毎 *1	100 時間毎または12ヶ月毎 *1	200 時間毎または24ヶ月毎 *1	
燃料ホース	ホース、クランプの点検			√		–
燃料フィラーキャップ／水分離器	O リングの亀裂、変形の点検			√		–
燃料タンク	取付、ストラップの点検			√		–
冷却水取入口ストレーナー	損傷、詰まりの点検			√		–
冷却水ホース	損傷、水漏れ、クランプの点検			√		–
エンジンオイル	交換	√		√		83
オイルフィルター	交換			√		83
中間ハウジング	グリス注入			√		–
スパークプラグ	点検	√		√		–
バッテリー	充電状態、端子、バッテリー固定バンド、ブリーザーホースの点検			√		–
バッテリーリード	端子の点検			√		–
ステアリングマスター	作動、ガタつきの点検	√		√		–
ステアリングケーブル	外観、接続部の点検、給脂			√		–
シフトロッド、リバースゲート	外観、接続部の点検、給脂			√		–
エアーフィルターエレメント	汚れ、損傷の点検			√		–
吸気ホース	損傷、クランプの点検			√		–
スロットルボディ	スロットルバルブの潤滑剤噴霧			√		–
エキゾーストシステム	排気漏れ、ホース、クランプの点検			√		–
ブリーザーホース	ホース、クランプの点検			√		–
インペラ	異物巻き込み、曲がり、損傷の点検			√		–

項目	作業内容	初回	次回以降			参照ページ
		10 時間	50 時間毎または12ヶ月毎 *1	100 時間毎または12ヶ月毎 *1	200 時間毎または24ヶ月毎 *1	
ジェットノズル	可動部の点検、給脂			√		—
ジェット負圧式排水システム	ホース類の損傷、詰まり、クランプの点検、ストレーナー清掃			√		—
ドレンプラグ	O リングの点検			√		—
アノード	腐食の点検、清掃				√ *2	—
バルブクリアランス	点検、調整				√ *2	—
ラバーカップリング	ガタつき、異音、亀裂、凹みの点検				√	—
エンジンマウント	剥がれ、損傷の点検				√	—

*1: いずれか早い方で対応

*2: 200 時間毎に点検

定期点検を行なう前に、使用前点検と使用後のお手入れを行なってください。

JJU36943

エンジンオイルとエンジンオイルフィルターの交換

JWJ00341

警 告

エンジン停止直後は、オイルが大変熱くなっています。エンジン停止直後のオイルが衣服にかかったり、身体に触れたりすると火傷をする恐れがあります。

JCJ00992

注 意

エンジンオイルを入れすぎたり、著しく少ない状態で運転しないでください。エンジン損傷の原因となります。

エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、ヤマハ取扱店で行なうことをお奨めします。もしご自身でこの作業を行なう場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JJU34543

仕様諸元

艇体許容量:
定員:
3 名
最大積載量:
240 kg
寸法:
全長（LOA）:
3350 mm
全幅（BOA）:
1220 mm
全高（DOA）:
1190 mm
乾燥重量:
301 kg (VX Deluxe)
303 kg (VX Cruiser)
性能:
最大出力:
85.0 kW / 8000 r/min (116 PS / 8000 r/min)
最大燃料消費量:
33.5 L/h
航続時間（全開にて）:
2.09 hour
トローリング:
1500 ±100 r/min
エンジン:
エンジン型式種類:
4 ストローク水冷 DOHC
気筒数:
3
総排気量:
1049 cm³
ボア × ストローク:
82.0 × 66.2 mm
圧縮比:
11.0 : 1
バルブクリアランス - 吸気側（冷機時）:
0.15–0.22 mm
バルブクリアランス - 排気側（冷機時）:
0.26–0.32 mm
潤滑方式:
ドライサンプ
冷却方式:
水冷
始動方式:
エレクトリックスタータ（電動）
点火方式:
T.C.I.
スパークプラグ型式 (NGK):
CR9EB
スパークプラグギャップ:
0.7–0.8 mm
バッテリ容量:
12 V, 19 Ah
発電方式:
フライホイールマグネトウ
ジェットユニット:
推進装置:
ジェットポンプ
ジェットポンプ方式:
軸流一段
インペラ回転方向:
反時計回り
操舵角（水平ノズル角）:
24+24 °
燃料およびオイル:
使用燃料:
無鉛レギュラーガソリン
推奨オイル:
YAMALUBE 4W or 4-stroke motor oil
推奨エンジンオイル粘度 SAE:
SAE 10W-30, 10W-40, 20W-40, 20W-50
推奨エンジンオイルグレード API:
API SG, SH, SJ, SL
燃料タンク容量:
70 L
オイルフィルタ交換時:
3.4 L
オイルフィルタ不交換時:
3.2 L
トータルオイル量:
3.7 L

万一のときは

JJU34562

トラブルシューティング

万一故障などのトラブルが発生したときには、故障診断表に従って点検を行なってください。

もし故障原因が見つからない場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JJU44120

故障診断表

推定原因とその処置内容を確認してから参照ページを見て処置してください。

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンが始動しない（スターターモーターが作動しない）	ヤマハセキュリティシステム	ロックが設定されている	ロックを解除する	24
	緊急エンジン停止スイッチ	ロックプレートが外れている	ロックプレートを取り付ける	25
	ヒューズ	溶断	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
	バッテリー	容量低下	充電する	76
		端子接続不良	締め付ける	76
		端子の腐食	清掃または交換する	76
	始動回路	不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
エンジンが始動しない（スターターモーターは作動する）	スロットルレバー	スロットルレバーを握っている	スロットルレバーを放す	25
		スロットルレバー不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
	RiDE レバー	RiDE レバーを握っている	RiDE レバーを放す	25
		RiDE レバー不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
	燃料	燃料が無い	給油する	47
		燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
	燃料タンク	水やゴミが混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
	スパークプラグ	汚損または不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–
	燃料噴射装置	燃料ポンプ不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	–

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンの回転にムラがある、あるいは停止する	燃料	燃料が無い	給油する	47
		燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	燃料タンク	水やゴミが混入している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	スパークプラグ	汚損または不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		プラグ熱価不適当	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		電極の隙間が不適当	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	電気配線	接続不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	燃料噴射装置	インジェクターの不良または目詰まりしている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
メーターの警告表示が点滅または点灯する	燃料残量警告	燃料が無い	給油する	47
	油圧警告	油圧低下	ヤマハ取扱店で整備を受ける	38
	オーバーヒート警告	ジェットインテークが目詰まりしている	清掃する	88
	チェックエンジン警告	センサー類の不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	39

故障	推定原因		処置内容	参照ページ
エンジンの回転数が低すぎる、あるいは推進力が弱い	航走モード設定	L- モードが作動している	L- モードを解除する	32
	キャビテーション	ジェットインテークが目詰まりしている	清掃する	88
		インペラ損傷または摩耗	ヤマハ取扱店で整備を受ける	88
	エンジンのオーバーヒート	回転数制御が作動している	ジェットインテークを掃除してエンジンを冷却する	39
	油圧低下	回転数制御が作動している	オイルを補充する	38
	スパークプラグ	汚損または不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		プラグ熱価不適当	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		電極間の隙間が不適当	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	電気配線	接続不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	燃料	燃料が古い、または汚れている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	エアフィルター	目詰まりしている	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
		オイルが大量に付着している	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—
	スロットルレバー	スロットルレバー不良	ヤマハ取扱店で整備を受ける	—

JJU34625

緊急時の対応方法

JJU44590

ジェットインテークとインペラの清掃

JWJ00783

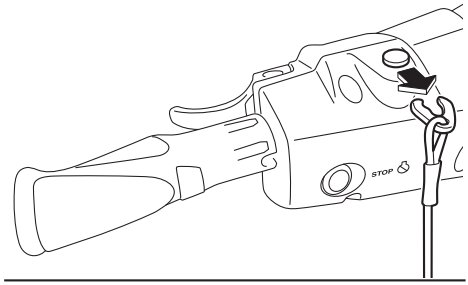
⚠警 告

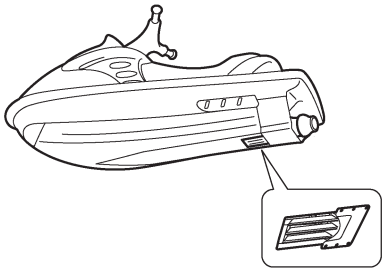
ジェットインテークやインペラから異物を取り除く前には必ずエンジンを停止させて、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを外してください。ジェットポンプの回転部品に触れると重大な事故につながる恐れがあります。

海藻やゴミなどがジェットインテークやインペラに詰まるとキャビテーションが発生し、エンジン回転数を上げても推進力は増大しません。このまま運転を続けるとエンジンがオーバーヒートして焼き付きを起す恐れがあります。***注意：*ジェットインテークに詰まった異物を取り除くまでは、トローリング速度を超えた速度で航走しないでください。**

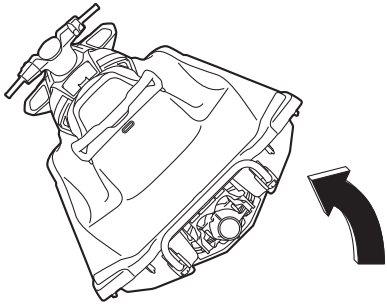
[JCJ00654]

海藻やゴミなどが目詰まりしていると思われるときは、マリンジェットを岸に引き上げてジェットインテークとインペラを点検してください。マリンジェットを岸に引き上げる前に必ずエンジンを停止させてください。



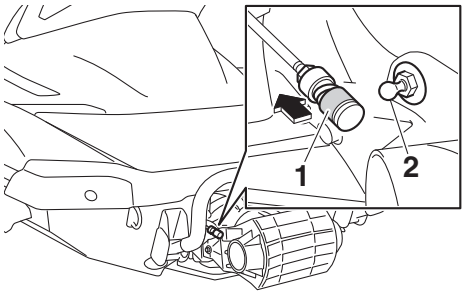


(1) 艇体に傷がつかないように、マリンジェットの下に適当なカーペットなどを敷いてください。図のようにマリンジェットを横にします。***注意：*マリンジェットを横にするときは、ハンドルバーが曲がったり破損したりしないように船首を持ってください。**[JCJ02690]



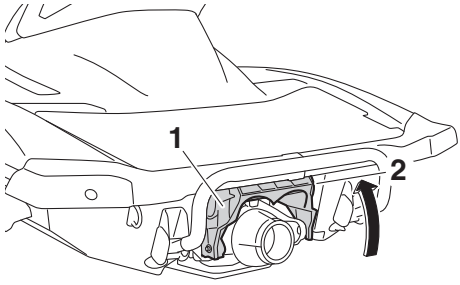
(2) ジェットインテーク、ドライブシャフト、インペラ、ジェットノズルの周囲から海藻やゴミを取り除きます。
取り除くことが困難な場合は、ヤマハ取扱店にご相談ください。

JJU43472
リバースゲートの持ち上げ
RiDE が故障し、リバースゲートが下りたままになった場合、マリンジェットは前進できなくなります。
リバースゲートを持ち上げ、航行可能な状態にした後は、すみやかに岸に戻り、ヤマハ取扱店で整備を受けてください。
リバースゲートを持ち上げるときは：
(1) エンジンを停止させ、緊急エンジン停止スイッチからロックプレートを取り外してください。
(2) 水中に入り、マリンジェットの後方に移動します。
(3) シフトロッドジョイントを船首方向にスライドさせ、シフトロッドジョイントをボールジョイントから外します。



1 シフトロッドジョイント
2 ボールジョイント

(4) リバースゲートを持ち上げ、前進位置にします。



1 リバースゲート
2 前進位置

要　点：
- シフトロッドを外した状態では、リバースゲートをニュートラル位置、後進位置にすることはできません。
- シフトロッドを外した状態で RiDE レバーを握ると、マリンジェットは前進します。

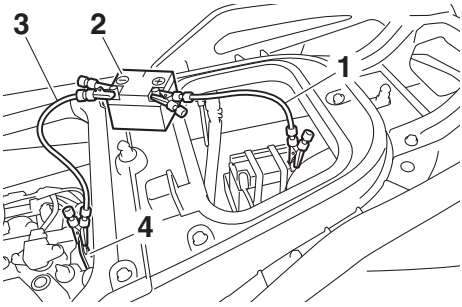
JJU34642
ブースターケーブルの使用
バッテリーが電圧低下して使えなくなった場合は 12 V のバッテリーとブースターケーブルを使ってエンジンを始動することができます。

JJU34664
ブースターケーブルの接続方法
JWJ01251

⚠警　告

爆発や電装系統部品の故障を避けるため、以下の事項を守ってください。
- **バッテリーに接続する際、ブースターケーブルを逆に接続しないでください。**
- **（−）側ブースターケーブルの他端をマリンジェット側のバッテリーの（−）端子には接続しないでください。**
- **（+）側ブースターケーブルと（−）側ブースターケーブルを接触させないでください。**

(1) 赤色のブースターケーブルを使って両方のバッテリーの（+）端子を接続します。
(2) 黒色のブースターケーブルをブースターバッテリーの（−）端子に接続します。
(3) 黒色のブースターケーブルの他端をエンジンハンガーに接続します。



1 赤色ブースターケーブル
2 ブースターバッテリー
3 黒色ブースターケーブル
4 エンジンハンガー

(4) エンジンを始動し、その後は逆の手順でブースターケーブルを取り外します。（エンジン始動については25ページを参照ください。）

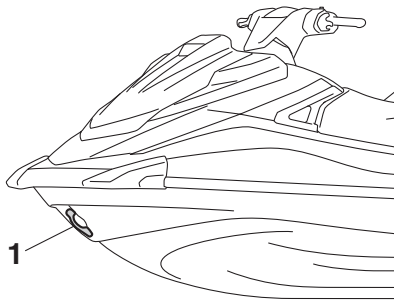
JJU34716
マリンジェットの曳航

JWJ00812
⚠警 告

- **曳航する船舶の操船者は速度を最低限に保ち、曳航されているマリンジェットの操船者にとって危険となる周囲の船舶や障害物等を回避してください。**
- **曳航ロープは、曳航する船舶が減速したときにマリンジェットが追突しないように十分に長いものを使用してください。**

自力での航走ができなくなった場合は、マリンジェットを岸まで曳航してください。

曳航されるときは：
曳航ロープは、曳航する船舶とマリンジェットの船の長さを合せた3倍以上のロープを使用します。
(1) 曳航ロープを曳航されるマリンジェットのバウアイに確実に取り付けます。



1 バウアイ

(2) 曳航されるマリンジェットに乗船します。乗船者はハンドルバーを握りバランスを取ります。***注意：*****曳航中は船首を必ず水面より上に出してください。エンジンルームへの浸水やエンジン内部への水の逆流により、エンジンが損傷する恐れがあります。**[JCJ01331]
(3) 曳航する船舶は 8 km/h 以下で航走します。***注意：*****曳航は 8 km/h 以下で行なってください。エンジンルームへの浸水やエンジン内部への水の逆流により、エンジンが損傷する恐れがあります。**[JCJ01322]

JJU36156
水没時の処置

マリンジェットが水没した場合は、まずエンジンルーム内のビルジを排水します。その後すみやかにヤマハ取扱店で整備を受けてください。
水没したときは：
(1) マリンジェットを陸揚げし、各物入れに溜まった水を排水します。（物入れの排水については 44 ページを参照ください。）

(2) エンジンルーム内のビルジを排水します。(ビルジの排水については 51 ページを参照ください。)
(3) できるだけすみやかにヤマハ取扱店で整備を受けてください。***注意：必ずヤマハ取扱店で整備を受けてください。そのまま放置するとエンジンの損傷が大きくなる恐れがあります。*** [JCJ00792]

JJU3586A

お客様ご相談窓口のご案内

お買い上げいただきました商品についてのお問い合わせ・ご相談は「ご購入店」または、下記窓口にお問い合わせください。

ご購入店

エリア	営業所	TEL
北海道	ヤマキ船舶化工(株)　サービス課	0134-31-1135
東　北	ヤマハ発動機(株)　東日本営業所　東北サービス課	022-727-5180
関　東	ヤマハ発動機(株)　東日本営業所　東日本サービス課	045-775-2450
中　部	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　中部サービス課	0533-59-6188
関　西	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　西日本サービス課	0798-37-2004
中四国	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　中四国サービス課	082-532-8522
九　州	ヤマハ発動機(株)　西日本営業所　九州サービス課	092-885-6523

営業時間　月曜～金曜(祝日、弊社所定の休日等を除く)　9:00～12:00　13:00～17:00

ヤマハ発動機株式会社 お客様相談室　〒438-8501 静岡県磐田市新貝2500

0120-090-819

オープン時間 月曜～金曜（祝日、弊社所定の休日等を除く） **9:00～12:00　13:00～17:00**

索引

ア
アイドリング回転数の点検 62
アワーメーター 40
イ
一般的に使用するマリンジェットの
航行区域 15
インフォメーションディスプレイ 36
エ
エンジンオイル 49
エンジンオイルとエンジンオイル
フィルターの交換 83
エンジンオイルについて 49
エンジンオイル量の点検 57
エンジン外観の点検 56
エンジン始動スイッチ 25
エンジン停止スイッチ 25
エンジンの停止 65
エンジン番号 1
エンジンルームの点検 56
エンジン冷却経路の水洗 75
オ
オーバーヒート警告 39
カ
海藻が密生している場所での航走 73
各部の潤滑 79
各部の洗浄 79
各部の防錆 79
各部の名称と位置 19
キ
緊急エンジン停止コード
（ランヤード）の点検 59
緊急エンジン停止スイッチ 25
緊急時の対応方法 88
ク
クリート 43
クルーズアシスト 34
グローブボックス 45
ケ
警告ラベル 4
コ
工具セット 81
航行区域 15
航走機能 29
航走について 7
航走モード 32
故障診断表 85
サ
桟橋からの出航 72
シ
シート 41
ジェットインテークとインペラの清掃 88
ジェットインテークの点検 60
ジェットノズル周辺の点検 60
シフトインジケーター 37
シフトシステム 29
シフトシステムの作動点検 61
重要なラベル 3
出航 71
出航・乗船時のエンジンの始動 64
使用後のお手入れ 75
乗船姿勢 63
使用の前に 63
使用前点検チェックポイント 56
使用前点検チェックリスト 54
進水後の点検 61
進水前の点検 56
ス
水上スキーについて 13
水上でのビルジ排水 51
スイッチ類の作動点検 59
水没時の処置 90
スターンアイ 43
ステアリングシステム 27
ステアリングシステムの作動点検 58
スピードメーター 36
スロットルレバー 26
スロットルレバーの作動点検 59
セ
製造番号 1
製造日付ラベル 2
整備と点検 81
船舶規則 14
船舶検査 14
ソ
操船機能 23
操船するときは 63
操船について 9
操船の前に 63
装備品 41
その他のラベル 5

タ
タコメーター 37
チ
チェックエンジン警告 39
着脱式防水物入れ 46
注意事項について 11
長期保管 79
テ
定期点検表 82
艇体外観の点検 60
艇体各部の水洗 76
艇体識別番号 1
艇体番号 1
電動後進レバー（RiDE レバー） 26
電動後進レバー（RiDE レバー）の
作動点検 59
転覆したときには 72
ト
同乗者と乗り込む場合 70
トラブルシューティング 85
トレーラーからの出航 72
トレーラーでの運搬 52
ドレンプラグの点検 60
ナ
慣らし運転 53
ネ
燃料 47
燃料計 38
燃料系統の点検 56
燃料残量警告 38
燃料残量の点検 56
燃料について 47
ノ
ノーウェイクモード 33
ハ
バウアイ 43
バウ物入れ 44
バッテリーのお手入れ 76
バッテリーの点検 57
ハンドグリップ 42
ヒ
1 人で乗り込む場合 69
ビルジの点検 57
ビルジの排水 51
フ
ブースターケーブルの使用 89
ブースターケーブルの接続方法 89
フードの点検 61
ホ
法定備品 14
法定備品の点検 60
他の遵守事項 17
母船に搭載して使用する
マリンジェットの航行区域 16
ボルトメーター 40
マ
マリンジェットから離れるとき 65
マリンジェットに関する用語 18
マリンジェットの曳航 90
マリンジェットの後進または
ニュートラル 68
マリンジェットの航走 65
マリンジェットの使用にあたり 6
マリンジェットの進水 64
マリンジェットの旋回 66
マリンジェットの着岸 73
マリンジェットの停船 67
マリンジェットの特性について 11
マリンジェットへの乗船 69
マルチファンクションメーター 36
マルチファンクションメーターの
作動点検 61
ミ
水分離器 27
水分離器の点検 56
モ
物入れ 44
物入れの点検 60
ヤ
ヤマハセキュリティシステム 23
ヤマハセキュリティシステムの設定 24
ユ
油圧警告 38
リ
陸揚げしたときには 73
陸上でのビルジ排水 51
リバースゲートの持ち上げ 89
リボーディングステップ 42

索引

リモートコントロール
　トランスミッター 23
リモートコントロール
　トランスミッターの点検 59
レ
冷却水点検孔 27
冷却水点検孔の点検 61
ロ
ロー RPM モード（L- モード） 32

JJU35872

不許複製

名称： マリンジェット VX Deluxe / VX Cruiser 取扱説明書
部品番号： F4G-28199-01
発行： ヤマハ発動機株式会社
2016 年 8 月

Printed in Japan
September 2016–0.1 × 1 CR

再生紙を使用しています。